

シラバス

令和2年度 夜間部1年

学校法人 札幌青葉学園

 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
歯科衛生士学校教育課程		P2
授業実施計画表		P3
1	生物学	P4
2	生化学	P6
3	基礎数学	P8
4	国語	P10
5	解剖学・組織発生学・生理学	P12
6	口腔解剖学	P14
7	歯牙解剖学	P16
8	口腔生理学	P18
9	薬理学・口腔薬理学	P20
10	微生物学・口腔微生物学	P22
11	口腔衛生学・歯科衛生統計	P24
12	歯科衛生士概論	P26
13	歯科臨床概論	P28
14	歯科保存学	P30
15	歯科補綴学	P32
16	歯科予防処置論 I	P34
17	歯科予防処置実習	P36
18	歯科保健指導論 I	P38
19	歯科保健指導実習	P40
20	歯科診療補助実習	P42
21	臨地実習・臨床実習	P44

歯科衛生士学校教育課程 夜間部

分野	教育内容	基準 単位数		科目名称	単位数	学年別授業時間数			単位授業数 時間数
						1	2	3	
基礎分野	科学的思考の基礎	10	1	生物学	2	30			30
			2	生化学	2	30			30
	3		基礎数学	1	20			20	
	4		国語	2	30			30	
	5		心理学	1		15		15	
	6		歯科英語	1		15		15	
	7		歯科情報処理	1		15		15	
	小計		10			10	110	45	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	8	解剖学・組織発生学・生理学	3	45			45
	歯・口腔の構造と機能		9	口腔解剖学	2	30			30
			10	歯牙解剖学	2	30			30
			11	口腔生理学	2	30			30
	疾病の成り立ちと回復の促進	12	病理学・口腔病理学	2		30		30	
		13	薬理学・口腔薬理学	2	30			30	
		14	微生物学・口腔微生物学	2	30			30	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7	15	衛生行政・社会福祉	2			30	30
		16	衛生学・公衆衛生学	2		15	15	30	
		17	口腔衛生学・歯科衛生統計	3	30	15		45	
小計	22			22	225	60	45	330	
専門分野	歯科衛生士概論	2	18	歯科衛生士概論	1	15			15
			19	歯科臨床概論	1	15			15
	臨床歯科医学	8	20	歯科保存学	2	15	15		30
			21	歯周治療学	1		20		20
			22	歯科補綴学	2	15	15		30
			23	口腔外科学	1		20		20
			24	小児歯科学	1			20	20
			25	矯正歯科学	1		20		20
			26	障害者歯科・高齢者歯科	1			20	20
	歯科予防処置論	8	27	歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15
			28	歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15
			29	歯科予防処置実習	6	30	90	60	180
	歯科保健指導論	7	30	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15
			31	歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15
			32	歯科保健指導実習	4	30	30	60	120
			33	栄養学・栄養指導	1		15		15
	歯科診療補助論	9	34	歯科診療補助論Ⅰ	1		15		15
35			介護技術	1		15		15	
36			臨床検査法	1			15	15	
37			歯科診療補助実習	6	60	60	60	180	
臨地実習・臨床実習	20	38	臨地実習・臨床実習	20	180	405	315	900	
小計	54			55	390	750	550	1690	
選択必修分野	7単位を選択	7	39	歯科接遇作法	1		15		15
			40	摂食機能訓練法	1			15	15
			41	医療保険事務	1		15		15
			42	多職種連携医療	1			15	15
			43	総合学習Ⅰ	1			15	15
			44	総合学習Ⅱ	1			15	15
			45	総合学習Ⅲ	1			15	15
小計	7			7	0	30	75	105	
合計	93			94	725	885	670	2280	
必修科目単位数(時間数)					87	725	855	595	2175
選択科目単位数(時間数)					7	0	30	75	105

単位について

ア.講義は基礎分野・専門分野については1単位 15H

イ.基礎実習については1単位 30H

ウ.臨床実習・隣地実習については1単位 45H

1. 生物学

2単位（必修）

第1学年 30時間

担当教員名	吉田 重光
授業科目概要	生物の誕生から進化、生物を構成する要素、について学ぶ。
目的	医療従事者として、また歯科衛生士として必ず知っていなければならない人間の体の構造と機能を理解するために必要な生物学の基礎的事項を習得する。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物誕生の過程を概説できる。 ・生物とは何かを理解する。 ・生物進化を学び生命の変遷を理解する。 ・生物構成する基本的な物質を理解する。 ・生物の基本単位である細胞の構造・機能を理解する。 ・遺伝子の構造と機能を理解する。 ・染色体、細胞分裂、遺伝とその法則を理解する。 ・受精から個体発生までの過程を知って発生について理解する。 ・体を構成する組織の構成と機能について理解する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	・授業プリントを配布する
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1・2	生物の誕生と進化・細胞
3・4	生物を構成する物質①
5・6	生物を構成する物質②
7・8	生物を構成する物質③
9・10	細胞膜の構造と機能・細胞小器官
11・12	細胞核・DNAと遺伝子・細胞分裂
13・14	生殖・減数分裂・遺伝
15・16	人体の発生①
17・18	人体の発生②
19・20	上皮組織・結合組織
21・22	軟骨組織・骨組織
23・24	骨格筋
25・26	平滑筋・心筋・神経組織
27・28	血液
29・30	免疫機構

2. 生化学

2単位 (必修)

第1学年 30時間

担当教員名	藤沢 隆一
授業科目概要	わたしたちの体を構成する物質である、タンパク質、糖質などがどういうものか、そして、それらがどのようにして働いているかを学びます。後半では、歯科特有のテーマに注目して、歯がどのような成分から構成されるか、そして、う蝕の発生メカニズムはどうなっているかなどについても学んでいきます。
目的	この授業の目的は、生命現象を化学の目で理解できるようにすることです。このことは、栄養学、医学の基礎として不可欠です。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生化学の基礎となる原子、分子、構造式について理解する。 ・糖質について、糖質の種類、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・脂質について、構造、代謝、生理機能について理解する。 ・タンパク質について構造、代謝、生理機能について理解する。 ・酵素の役割について理解する。 ・口腔組織を構成する結合組織の概略を理解する。 ・歯の構成成分について理解する。 ・唾液の成分、唾液の果たす役割について理解する。 ・歯の堆積物であるプラーク、歯石について理解する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価 ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2「栄養と代謝」 (医歯薬出版)
留意事項	化学が苦手な人でもわかるように、基礎的なところから説明していきたいと思います。皆さんは、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてきてください。

授業計画：講義

回	内 容
1	化学の基礎：1 原子と分子
2	化学の基礎：2 分子量とモル濃度
3	細胞の役割
4	細胞の役割
5	生体における水
6	生体における水
7	生体構成成分と栄養素
8	生体構成成分と栄養素
9	生体構成成分と栄養素
10	生体構成成分と栄養素
11	生体における化学反応・酵素
12	生体における化学反応・酵素
13	脂質の代謝とエネルギーの生成
14	脂質の代謝とエネルギーの生成
15	タンパク質とアミノ酸の代謝
16	タンパク質とアミノ酸の代謝
17	生体における恒常性の維持
18	生体における恒常性の維持
19	結合組織、歯の構成成分
20	結合組織、歯の構成成分
21	硬組織の生化学：石灰化
22	硬組織の生化学：石灰化
23	硬組織の生化学：骨の形成と吸収
24	硬組織の生化学：骨の形成と吸収
25	唾液の生化学
26	唾液の生化学
27	プラークの生化学
28	プラークの生化学
29	生体防御機構と炎症反応
30	生体防御機構と炎症反応

3. 基礎数学（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第 1 学年 20 時間

担当教員名	岸川 留利花
授業科目概要	歯科医療現場では、薬品の取り扱いに関する計算や、患者指導に用いる資料の計算が必要になる。そのために基礎的な計算方法を習得する。
目的	歯科医療現場で必要となる基礎的な計算方法を習得する。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な四則計算ができる ・単位の換算ができる ・比を用いた計算ができる ・濃度の計算ができる
成績評価法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80～89点、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	・自主教材
留意事項	・小学校で学んだ計算について復習しておくこと

授業計画：講義

回	内 容
1、2	四則計算①
3、4	四則計算②
5、6	単位の換算①
7、8	単位の換算②
9、10	比を用いた計算①
11、12	比を用いた計算②
13、14	濃度の計算①
15、16	濃度の計算②
17、18	文章問題
19、20	まとめ

4. 国語（実務教員による講義）

2単位（必修）

第1学年 30時間

担当教員名	菅原 和美
授業科目概要	日本語を知ると共に、日常使用される日本語の意味や敬語の使い方を学ぶ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年齢層に対応できるよう正しい日本語を身につけることを目的とする ・他の人と意見交換をすることで、自分の考えを伝え、相手の意見に耳を傾ける力を身につける
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な字を書くことができる ・漢字の読み書きができる ・尊敬語・丁寧語・謙譲語を使い分けることができる ・文章を声に出して読むことができる ・自分の考えを文章にすることができる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度，提出物等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	・自主教材
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	漢字の読み書き①
3、4	漢字の読み書き②
5、6	漢字の読み書き③
7、8	漢字の読み書き④
9、10	尊敬語・丁寧語・謙譲語①
11、12	尊敬語・丁寧語・謙譲語②
13、14	尊敬語・丁寧語・謙譲語③
15、16	尊敬語・丁寧語・謙譲語④
17、18	朗読①
19、20	朗読②
21、22	朗読③
23、24	朗読④
25、26	朗読⑤
27、28	朗読⑥
29、30	まとめ

5. 解剖学・組織発生学・生理学

3単位(必修)

第1学年 45時間

担当教員名	吉田 重光
授業科目概要	教科書として全国歯科衛生士教育協会編集の最新歯科衛生士教本である「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版)」を用いる。 具体的には、解剖学総論、骨格系、筋系、脈管系、内臓学、神経・感覚器、内分泌の順に、体を系統別に分け、その構造と機能について講義する
目的	この授業の目的は歯科医学の初学生である1年次学生が、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上で最も基礎となる、人体の正常な形態と構造についての基本的な知識を身につけさせることにある。
学習目標	人体の正常な形態と構造について学び、コデンタルスタッフとして必要な解剖学的知識を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・人体の区分、方向用語等を理解する。 ・骨の一般的な構造と機能を理解するとともに、全身の骨についても理解を深める。 ・骨格筋の一般的な構造と機能を理解するとともに、全身の筋についても理解を深める。 ・循環器系の基本構造と機能を理解する。 ・消化器系の基本構造と機能を理解する。 ・呼吸器系の基本構造と機能を理解する。 ・神経系の基本構造と機能を理解する。 ・感覚器系の基本構造と機能を理解する。 ・泌尿生殖器系の基本構造と機能を理解する。 ・内分泌系の基本構造と機能、ホルモンの機能について理解する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 授業開始時に適宜プリント配布</p> <p>【参考書】</p> <p>藤田恒夫 「入門人体解剖学」 南江堂 (学内図書)</p>
留意事項	解剖生理学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画：講義

回	内 容
1～3	総論・方向用語・骨格
4～6	骨（頭部・体幹・体肢）
7～9	骨格筋（頭顔面・体幹）
10～12	循環器（総論・心臓）
13～15	循環器（動脈・静脈・リンパ管）
16～18	消化器（口腔・咽頭）
19～21	消化器（食道・胃・腸管）
22～24	呼吸器
25～27	神経（総論・脳）
28～30	神経（脊髄神経）
31～33	神経（自律神経）
34～36	感覚器（皮膚・視覚器）
37～39	感覚器（平衡聴覚器）
40～42	泌尿生殖器
43～45	内分泌

6. 口腔解剖学

2単位（必修）

第1学年 30時間

担当教員名	吉田 重光
授業科目概要	教科書として全国歯科衛生士教育協会編集の最新歯科衛生士教本である「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）」を用い、口腔解剖学と口腔生理学の総論、口腔組織と顎顔面の発生、口腔の構造と機能について講義する。
目的	この授業の目的は、歯科医学の初学生である1年次学生が、顎口腔関係の専門科目を学ぶ上で最も基礎となる、顎口腔の正常な構造と機能に関する基本的な知識を身につけさせることにある。
学習目標	<p>歯科衛生士として必要な口腔の構造と機能に関する基本的な知識を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顔面と口腔の発生の基本的な事項を理解する。 2. 口腔付近の骨・筋・内臓・顎関節に関する基本的な構造と機能を理解する。 3. 口腔付近の動脈・静脈・神経・リンパ管に関する基本的な構造と機能を理解する。 4. 歯と口腔の感覚・味覚・嗅覚に関する基本的な構造と機能を理解する。 5. 嚥下と嘔吐、発声器に関する基本的な構造と機能を理解する。 6. 歯の形態・歯の発生・咬合・咀嚼に関する基本的な構造と機能を理解する。 7. 下顎運動と咬合・咀嚼・吸啜に関する基本的な構造と機能を理解する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80点以上，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版） 授業開始時にプリントを配布する。</p> <p>【参考書】</p> <p>藤田恒夫 「入門人体解剖学」 南江堂（学内図書） 高野廣子 「解剖生理学」 南山堂（学内図書） 河田光博/樋口隆 「シンプル解剖生理学」 南江堂（学内図書）など</p>
留意事項	口腔解剖学、口腔生理学で学ぶ内容は非常に多く、限られた時間で講義を進めなければならない。したがって、あらかじめ教科書を良く読んで、予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画：講義

回	内 容
1～3	顔面と口腔の発生、口腔の概要
4～6	口腔を構成する骨と筋、口腔付近の脈管
7～9	口腔付近の神経、歯と口腔の感覚
10～12	嚥下と嘔吐、発声器
13～15	歯の形態（永久歯）
16～18	歯の形態（乳歯）、歯の発生
19～21	咬合と咀嚼
22～24	歯と歯周組織の構造と機能①
25～27	歯と歯周組織の構造と機能②
28～30	口腔組織実習（スケッチ）

7. 歯牙解剖学

2単位（必修）

第1学年 30時間

担当教員名	櫻井 泰輔
授業科目概要	歯の基本的構造、永久歯および乳歯の形態的特徴、歯の配列と咬合、異常歯などについて学ぶ。 また、実習では、歯のスケッチと歯型彫刻を行って、歯の立体的な形態に対する理解を深める。
目的	歯の基本的形態とそれぞれの特徴について理解し、歯科衛生士として臨床において必要となる歯牙の形態学的知識を修得する。
学習目標	正常な歯の配列と咬合がわかる。 特定の歯の立体的な形態をイメージでき、歯の鑑別ができる。 異常歯の種類を説明できる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・課題提出物 ・講義、実習への取り組み方、学習態度 <p>以上により総合的に評価を行い合否を判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「秀」：90点以上，「優」：80点以上，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版） 各種プリント</p> <p>【参考書】 歯の解剖学 （金原出版）</p>
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	歯の概論① 歯式、歯の用語、形態に関する名称、ミュールライターの三徴候
3、4	永久歯：中切歯、側切歯、犬歯
5、6	永久歯：第一小白歯、第二小白歯
7、8	永久歯：上顎第一大臼歯、第二大臼歯
9、10	永久歯：下顎第一大臼歯、第二大臼歯
11、12	乳歯：乳切歯、乳犬歯
13、14	乳歯：第一乳臼歯、第二乳臼歯
15、16	歯の配列と咬合、異常歯
17、18	実習 歯のスケッチ：上顎第一大臼歯
19、20	実習 歯型彫刻：上顎第一大臼歯
21、22	実習 歯型彫刻：上顎第一大臼歯
23、24	実習 歯のスケッチ：下顎第一大臼歯
25、26	実習 歯型彫刻：下顎第一大臼歯
27、28	実習 歯のスケッチ：上顎第一小白歯、上顎第二小白歯
29、30	実習 歯のスケッチ：下顎第一小白歯、下顎第二小白歯

8. 口腔生理学

2単位（必修）

第1学年 30時間

担当教員名	実藤 潤
授業科目概要	口腔は、消化器官、呼吸器官、発語器官、感覚器官として機能し、歯、唾液、咀嚼、味覚など特異的な機能が存在しています。これら器官として機能する機構を明らかにする学問です。
目的	口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するために、また、これらの諸器官の機能障害を予防・治療する上で基礎となる知識を習得する。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>口腔を構成している組織や諸器官の役割を理解し、その機能を健全に維持するための機構についての生理学的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>口腔生理学とは何か、を理解する。</p> <p>歯と口腔の感覚：咬合に重要な役割をする歯と歯を支持する歯周組織の機能的構造を説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">歯、歯髄、歯周組織の感覚機能を説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">口腔粘膜の感覚を理解できる。口腔内の感覚点の特徴を説明できる。</p> <p>味覚：味覚の神経機構の概要を理解できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">味蕾のはたらきと分布を説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">味覚の五基本味、味覚閾値を説明できる。</p> <p>嗅覚：嗅覚の役割・特性について説明できる。</p> <p>咬合：下顎位について説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">下顎の運動の特徴について説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">下顎の運動に関与する筋（咀嚼筋）について説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">咀嚼筋の特性を説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">下顎運動と顎関節内の動きを説明できる。</p> <p>顎反射：顎反射の機序を説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">顎運動調節への役割を説明できる。</p> <p>摂食：摂食行動を説明できる。</p> <p>咀嚼：咀嚼時の神経性抑制機構を理解できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">咀嚼時の下顎の動き・食物の動きを説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">咀嚼能率について説明できる。</p> <p>吸啜：吸啜・吸指癖について説明できる。</p> <p>嚥下：嚥下と嘔吐にかかわる解剖学的構造を説明できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">摂食・嚥下の流れについて説明できる。</p> <p>嘔吐：嘔吐の機序、嘔吐の神経機構を説明できる。</p> <p>発声：発声機構の概要を理解できる。声の生成機序を理解できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">言語音の形成と構音障害を説明できる。歯・口腔の病態と発音について説明できる。</p> <p>唾液：唾液腺の解剖学的概要を説明できる。唾液の分泌機構を理解できる。</p> <p style="padding-left: 40px;">唾液の分泌量、性状・成分と機能について説明できる。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満した者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績で評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】最新歯科衛生士教本</p> <p style="padding-left: 40px;">歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学</p>
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	口腔生理学とは何か。口腔の役割。 口腔の構造、歯と歯周組織の生理、歯の化学的性質の概要。
3、4	3章 歯と口腔の感覚 ①歯の感覚（歯の圧痛、位置感覚、歯髄感覚 他）②口腔粘膜の感覚
5、6	4章 ①味覚 ②嗅覚
7、8	5章 咬合と咀嚼・吸啜 ①下顎位 ②下顎の運動：下顎運動の特徴、下顎限界運動
9、10	③顎反射 ④摂食行動：食物認知、咀嚼（咀嚼時の下顎運動、他）
11、12	⑤咀嚼能力：評価法、咀嚼能力に影響する要因
13、14	⑥吸啜（追加）口呼吸
15、16	6章 嚥下と嘔吐 ①嚥下と嘔吐に関わる構造（咽頭、喉頭、食道の構造の概略、嚥下に関与する筋群）
17、18	②嚥下（摂食、嚥下の流れ、嚥下の概要、嚥下の神経機構、他）
19、20	③嘔吐
21、22	7章 発声 ①発声機構の概要 ②声の生成
23、24	③言語音の形成 ④歯・口腔の病態と発音
25、26	8章 唾液 ①唾液腺の解剖学的概要 ②唾液の分泌機構
27、28	③唾液の性状・成分と機能
29、30	④唾液と疾患（唾液とう蝕症、唾液と粘膜疾患・歯周疾患、唾液腺マッサージ 全身疾患と唾液分泌、薬物と唾液分泌）

9. 薬理学・口腔薬理学

2単位（必修）

第1学年 30時間

担当教員名	先崎 秀夫
授業科目概要	<p>薬理学とは、生理学から分かれた大きな枝の一つであり、生命科学であると同時に、病気を治すという臨床医学の一分野でもある。したがって、生体がどのように健康な機能を維持しているのかについて正しく理解させ、人体に薬物を投与したときに起こる様々な変化（作用、副作用さらに為害作用）を概説する。</p> <p>また歯科医療において、一般の医療ではあまり使われないような劇薬類が日常的に口腔内に適用されているため、これらの薬物を安全、的確に管理できるように講義する。</p> <p>さらに、高齢者や有病者が歯科診療を受ける機会がますます増加している今日、口腔内に限った薬物の知識ばかりではなく、全身的に投与する薬物の知識、全身管理や安全管理などの知識に関しても講義する。</p>
目的	<p>歯科衛生士として必要な薬理学の知識を習得し、全身管理の知識と、薬剤に関する広い知識を持つ。</p> <p>さらに歯科臨床において使用する薬剤の作用や副作用を知り、正常な口腔のみならず様々な口腔疾患を有する傷病者に対し、診療介助や予防指導および口腔介護を安全に実施できること。</p>
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 生体の仕組みや疾病の成り立ちと抵抗性について理解させる ② 薬理学の目的や基本的な用語について正しく理解させる ③ 様々な薬物についての薬理作用や為害作用などを理解しそれらについての正しい知識を持つ ④ 妊婦・小児や高齢者の薬物代謝および多剤服用患者の薬物相互作用についての正しい知識を持つ ⑤ 患者の問診を的確に行い正しい医療情報を把握できるようにする ⑥ 診療室内の種々の薬物の安全管理を正確に出来るようにする ⑦ 薬物投与に関するインシデントや医療事故について理解させる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・出席状況 <p>以上により総合評価をして可否を判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版（医歯薬出版）</p> <p>【参考書】</p> <p>現代歯科薬理学第4版（医歯薬出版）</p> <p>ヒヤリハットにさようなら！早わかり薬の知識（メディカ出版）</p> <p>有病高齢者・歯科治療のガイドライン（クインテッセンス）</p> <p>一目で分かる薬理学第4版（メディカルサイエンス）</p>
留意事項	<p>薬理学を理解し歯科医療に役立てるためには、解剖学、生理学、生化学、微生物学、病理学などの専門的知識が必要となる。また膨大な知識を頭から詰め込むのではなく、できるかぎり論理的に納得しながら学ぶ努力をさせるため講義内容を記録させ整理させる。</p>

授業計画：講義

回	内 容
1	薬理学総論 1：疾病の回復の促進と薬 2：薬物の定義と分類
2	薬理学総論 3：薬物の用量と反応 4：薬物の分布と運命
3	薬理学総論 5：薬物の作用と副作用 6：薬物の連用など
4	薬理学総論 7：薬物の副作用 8：医薬品の開発
5	薬理学総論 9：くすりと法律
6	薬理学総論 10：医薬品の開発
7	薬理学総論 11：薬の管理と
8	薬理学総論 12：くすりとインシデント
9	薬理学総論 13：一般的な服薬指導、対象者別の服薬指導
10	中枢神経系と薬 1：中枢神経とは
11	中枢神経系と薬 2：中枢神経に作用する薬物
12	末梢神経系の分類と薬
13	末梢神経系と薬 1：末梢神経系に作用する薬物
14	局所麻酔薬
15	バイタルサインとは
16	循環・呼吸系と薬 1：循環系に作用する薬物 2：呼吸系に作用する薬物
17	血液と薬 1：血液凝固 2：血液に関連する薬物
18	炎症と薬 1：炎症とは 2：炎症に作用する薬物
19	痛みとくすり
20	ビタミン・ホルモンと薬 1：ビタミン 2：ホルモン
21	代謝性疾患治療薬 ①骨粗鬆症とくすり
22	代謝性疾患治療薬 ②糖尿病と薬
23	感染症と薬 1：感染症とは 2：抗感染症薬
24	感染症と薬 3：消毒薬
25	免疫と薬 1：免疫とは 2：免疫系に作用する薬物
26	悪性腫瘍と薬 1：悪性腫瘍とは 2：抗悪性腫瘍薬
27	1：漢方医学とは 2：漢方薬とは
28	歯・歯髄疾患と薬 1：齶蝕の予防に用いる薬物 2：歯・歯髄疾患の治療に用いる薬物
29	歯周疾患と薬 1：歯周治療における薬物療法 2：急性炎症に用いる薬剤 3：歯周治療に用いる薬剤 4：口臭治療に用いる薬剤
30	顎・口腔粘膜疾患と薬 1：炎症性疾患に用いる薬物 2：口腔粘膜疾患に用いる薬物 3：顎関節症に用いる薬物 4：口腔乾燥症に用いる薬物 5：神経疾患に用いる薬物

担当教員名	先崎 秀夫
授業科目概要	衛生士業務の口腔疾患に関する予防処置や保健指導が含まれて、口腔疾患の多くが常在菌によっておこる感染症であり、業務の遂行にあたっては、それら微生物の性状や発症のメカニズムなどについて熟知する。また、近年、耐性菌による院内感染や、AIDSやB型肝炎などに関しても、診療の場において機械器具の消毒や滅菌に携わる立場上、十分な微生物学的知識が必要である。さらに、口腔疾患の予防という立場から、免疫、アレルギーのメカニズムに関する知識を得る。
目的	微生物が関わる様々な感染症の発症と免疫のメカニズムを学び、口腔感染症の予防について正しく理解し、正常な口腔のみならず様々な口腔疾患を有する傷病者に対する診療介助や予防指導および口腔介護を安全に実施できるように役立てること。
学習目標	<p>感染症の発症メカニズムを微生物の性状や宿主（人・動物）の免疫との関連を学習しながら以下の項目を重点に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 微生物学の発達と歴史 ② 微生物の一般性状とその特徴 ③ 微生物の様々な観察方法 ④ 感染と疾病発症のしくみ ⑤ 免疫と炎症のメカニズム ⑥ 病原微生物各論 ⑦ 化学療法の原理とその臨床 ⑧ 滅菌と消毒の実際と院内感染の防止について ⑨ 口腔常在微生物と口腔疾患 ⑩ デンタルバイオフィルム（歯垢）形成のしくみとその性状および病原性について ⑪ 様々な口腔感染症と内因感染について ⑫ 病巣感染と全身疾患との関わり
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・出席状況 <p>以上により総合評価をして可否を判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 「微生物学」（医歯薬出版）</p> <p>【参考書】</p> <p>口腔微生物学・免疫学 第2版（医歯薬出版）、医科免疫学（改訂第5版）南江堂 新・う蝕の科学（医歯薬出版）、ウィルスと感染の仕組み（日本実業出版） 改訂版 口腔の感染症とアレルギー（一世出版）</p>
留意事項	細菌、ウイルスをはじめとする微生物は、体内をはじめ自然界の様々な場所に生息し、人間と共存しているが、時として人間に対し、有害な存在ともなる。これらのことから微生物学を通して予防、感染防止にかかわる基礎医学、並びに、内科、その他の隣接医学の知識を広く持たせる。

授業計画：講義

回	内 容
1、2	微生物の発達と歴史 微生物の一般的性状
3、4	細菌 細菌の構造と増殖、リケッチア、クラミジア、真菌、原虫
5、6	ウイルスの病原性と構造 ウイルスの増殖
7、8	微生物の培養法と観察方法 バイオフィーム プリオン
9、10	生体の防御と微生物の特性 感染と発症：1 自然免疫 マクロファージについて
11、12	感染と発症：2 サイトカインとマクロファージ 感染症の種類と分類
13、14	免疫：1 ヘルパーT細胞の役割 免疫細胞の分布と分化 抗原提示細胞とは
15、16	免疫：2 粘膜免疫について 体液性免疫 細胞性免疫
17、18	免疫：3 体液性免疫・抗体とは 抗原抗体反応とその応用
19、20	免疫：4 抗原抗体反応を応用した検査 アレルギーⅠ～Ⅳ型 自己免疫疾患
21、22	一般微生物感染症各論：1
23、24	一般微生物感染症各論：2
25、26	一般微生物感染症各論：3 歯科領域における感染防止
27、28	一般微生物感染症各論：4 口腔常在微生物：1
29、30	一般微生物感染症各論：4 口腔常在微生物：2 その他、口腔関連微生物感染症

担当教員名	兼平 孝
授業科目概要	口腔衛生学は、歯科医学においては基礎に位置づけられる科目であるが、様々な予防処置や保健指導などの臨床的な内容、公衆歯科衛生や地域歯科保健活動などの社会歯科学的内容も多い。歯や口腔の正常な状態、機能に加えて、う蝕や歯周病、その他の口腔疾患の原因と予防法を学ぶことで、国民の口腔の健康増進を図ることを目的とする。
目的	歯科予防処置及び歯科保健指導の基礎となる口腔衛生学を学ぶことにより、予防処置や保健指導などの実践に役立てる。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>口腔衛生学の内容を確実に理解し、臨床現場のみならず広く社会で実践することは歯科衛生士の基本的任務である。そのため、口腔衛生学を講義や実習から興味と意欲をもって十分学び、う蝕や歯周病等の予防的処置や保健指導、地域の歯科保健活動に参画できるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 口腔衛生学の位置づけ、意義を理解する ② 予防や保健、健康増進の概念・意義を理解する ③ 第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する ④ 歯や口腔の正常像、機能を理解する ⑤ 口腔の不潔と口腔清掃について理解する ⑥ う蝕や歯周病の原因と予防法について学ぶ ⑦ 不正咬合や口臭、その他の口腔疾患の原因と予防法について学ぶ ⑧ 公衆歯科衛生の概念および地域歯科保健活動について理解する ⑨ 歯科疾患を表現する各種の指数と疫学について学ぶ ⑩ 得られたデータを統計処理する方法について学ぶ ⑪ 地域の歯科保健状況を分析する方法について学ぶ ⑫ 地域に必要な歯科保健対策を立案する方法について学ぶ ⑬ 地域の歯科保健活動を実施する方法について学ぶ
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満した者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 「保健生態学」第2版 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 「保健情報統計学」</p> <p>【参考図書】</p> <p>口腔保健学第2版（医歯薬出版） 新予防歯科学第4版（医歯薬出版）スタンダード口腔保健学（学建書院）</p>
留意事項	

授業計画：第1学年

回	内 容	
1、2	口腔衛生学の意義	①口腔衛生学とは ②健康障害への対応の5つのステップ
3、4	歯・口の健康（1）	①歯・口の正常像
5、6	歯・口の健康（2）	②歯・口の機能 ③全身と歯・口の発育
7、8	歯・口の健康（3）	③全身と歯・口の発育 ④全身疾患との関連
9、10	口腔の不潔（1）	①口の環境 ②歯の付着物・沈着物
11、12	う蝕の予防（1）	①う蝕という病気 ②う蝕発病のしくみ
13、14	う蝕の予防（2）	③う蝕の発生意因
15、16	う蝕の予防（3）	④う蝕活動性
17、18	う蝕の予防（4）	⑤う蝕の予防法
19、20	歯周疾患の予防（1）	①歯周疾患の疫学 ②歯周疾患の症状と分類
21、22	歯周疾患の予防（2）	③発病機構
23、24	歯周疾患の予防（3）	④予防手段 ⑤歯周疾患の予防処置
25、26	不正咬合の予防 その他の疾患・異常の予防（1）	①不正咬合の成立 ①顎関節症
27、28	その他の疾患・異常の予防（2）	②口臭 ③舌痛症
29、30	その他の疾患・異常の予防（3）	④口腔癌 ⑤智歯周囲炎

12. 歯科衛生士概論（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年 15時間

担当教員名	窪田 康花
授業科目概要	保健・医療福祉の概念および歯科疾患の概要を会得し、歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割と業務上の義務と責任について十分理解して、歯科衛生士を目指す者としての学習態度、心構えなどを養えるようにする。
目的	歯科医療の特異性、歯科衛生士の果たす役割と、業務上の義務と責任について理解を深め、社会のニーズを敏感にキャッチし、対応する力を身につける。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>歯科衛生士の業務内容・歴史等と歯科衛生士を取り巻く環境について修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 歯科衛生士の定義を言える。 ② 日本における歯科衛生士の誕生と歩みの概要を説明できる。 ③ 歯科衛生士の働く場所が説明できる。 ④ 世界の歯科衛生士の現状（存在する国、制度、数等）が説明できる。 ⑤ デンタルチームと他の医療職の関りについて説明できる。 ⑥ 歯科衛生士に関する法令（歯科衛生士法・施行令・施行規則）が言える。 ⑦ 歯科衛生士の業務が説明できる。 ⑧ 医療倫理について説明できる。 ⑨ 期待される歯科衛生士像について説明できる。 ⑩ 歯科医療の特異性を説明できる。 ⑪ 歯科衛生士教育の体系について分かる。 ⑫ 自分の目指す歯科衛生士像を言える。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科衛生学総論」（医歯薬出版）</p>
留意事項	学問知識のみでなく、希望をもって歯科衛生士を目指して学習する意欲を喚起できるようにする。

授業計画：講義

回	内 容
1	1章 歯科衛生学とは
2	2章 歯科衛生士の歴史
3	3章 歯科衛生活動のための理論 ①予防の概念
4	3章 歯科衛生活動のための理論 ②歯科衛生の考え方 ― 科学的思考
5	4章 歯科衛生過程 ①歯科衛生過程とは ②歯科衛生過程活用の利点 ③歯科衛生過程の流れ
6	4章 歯科衛生過程 ③歯科衛生過程の流れ
7	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科衛生士と歯科衛生士法
8	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ②歯科衛生士の役割 ③関連法規
9	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ④安全管理 1. リスクマネジメント
10	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 ④安全管理 2. 感染予防対策
11	6章 歯科衛生士と医療倫理 ①倫理の必要性 ②胃の倫理と患者の権利 ③歯科衛生士と倫理
12	6章 歯科衛生士と医療倫理 ④対象の自己決定権の尊重 ⑤インフォームド・コンセント ⑥倫理の適用
13	7章 歯科衛生士の活動と組織 ①歯科衛生活動の現況
14	7章 歯科衛生士の活動と組織 ②歯科衛生活動の場 ③歯科衛生士と組織
15	8章 海外における歯科衛生士

13. 歯科臨床概論（実務教員による講義）

1単位（必修）

第1学年 15時間

担当教員名	窪田 康花
授業科目概要	歯科学の歴史・歯科基礎医学を概観し歯科医療を全体的に見る。歯科医療の特異性・医療従事者と患者さんとの関係・歯科診療のながれ・歯科疾患の概要・各診療科における治療の概要を講義する。
目的	歯科学に携わる者としてその仕事の間である歯科臨床についての概要を知ることが目的とする。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>現実の歯科医療がどのように行われ、どのような病気が存在し、どのように治療が行われていくのかを概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 世界と日本の歯科医療の歴史を学ぶ。</p> <p>② 医療と歯科医療に共通する倫理や歯科医療独特の問題を理解する。</p> <p>③ 患者との対応、小児から高齢者、有病歯科患者に至るまでの対応を考える。</p> <p>④ 歯科疾患の全容を概観する。詳細は各科の講義で行う。</p> <p>⑤ 歯科診療の概要と歯科診療のながれを理解する。</p> <p>⑥ 各診療科（保存・歯周病・補綴・小児・矯正・口腔外科）の治療の概要を理解する。それぞれの治療における歯科衛生士の役割を理解する。</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>歯科衛生士のための 歯科臨床概論（医歯薬出版）</p>
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1	I 編 1章 歯科診療とは 2章 歯科診療所
2	I 編 3章 歯科診療所における業務
3	II 編 1章 ライフステージと歯科診療 II 編 2章 歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置 ①バイタルサインの確認 ②画像検査
4	II 編 2章 歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置 ③歯周組織 ④痛みのコントロール
5	II 編 2章 歯科診療で行うこと 2. 小児歯科 ①小児歯科 ②先天異常への対応
6	II 編 2章 歯科診療で行うこと 2. 小児歯科 ③う蝕予防処置
7	II 編 2章 歯科診療で行うこと 3. 歯科矯正
8	II 編 2章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科 ①口腔外科 ②外傷の治療 ③抜歯
9	II 編 2章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科 ③抜歯 ④口腔粘膜疾患の処置
10	II 編 2章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存 ①歯科保存 ②象牙質知覚過敏症 ③歯冠部う蝕
11	II 編 2章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存 ④根面う蝕 ⑤歯内療法 ⑥歯のホワイトニング
12	II 編 2章 歯科診療で行うこと 6. 歯周治療
13	II 編 2章 歯科診療で行うこと 7. 歯科補綴 ①歯科補綴 ②義歯の製作
14	II 編 2章 歯科診療で行うこと 7. 歯科補綴 ②義歯の製作
15	II 編 2章 歯科診療で行うこと 8. 障害者歯科・高齢者歯科

14. 歯科保存学

2単位（必修）

第1学年 1単位 （15時間）

担当教員名	渡邊 千春
授業科目概要	<p>歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」に分けられる。</p> <p>「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。</p> <p>「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法、歯の漂泊などの各種治療法と臨床術式について説明する。</p>
目的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療に対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。
学習目標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。 ・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。 ・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。 ・ 歯の漂白の方法について理解できる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留意事項	<p>あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。</p> <p>事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。</p>

授業計画：第1学年

回	内 容
1、2	歯科保存学とは：対象となる疾患 口腔診査：基礎知識と前準備 現症
3、4	保存修復学 保存修復の適応症と禁忌症 対象となる硬組織疾患① う蝕の発生機構、う蝕の分類と名称、う蝕の発生要因
5、6	対象となる硬組織疾患② エナメル質う蝕、象牙質う蝕、根面う蝕、二次う蝕 咬耗症、摩耗症、侵蝕症、変色・着色歯、エナメル質形成不全、破折、形態異常
7、8	保存修復の材料・器具 窩洞形成と歯髄刺激
9、10	歯髄保護法
11、12	窩洞について 窩洞の分類、Blackの窩洞分類、歯面の略号と窩洞の名称 コンポジットレジン修復
13、14	セメント修復 鑄造修復
15	ラミネートベニア修復 アマルガム修復

15. 歯科補綴学

2単位 (必修)

第1学年 1単位 (15時間)

担当教員名	櫻井 泰輔
授業科目概要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物（補綴装置）を用いて口腔の諸機能及び外観を回復する過程を理解する。
学習目標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 「歯科補綴学 第2版」 (医歯薬出版)
留意事項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1	歯科補綴治療学とは 歯科補綴治療の意義、目的 補綴装置の種類と適応
2	歯科補綴治療学とは 歯科補綴治療の意義、目的 補綴装置の種類と適応
3	歯科補綴治療の基礎知識：1 歯列の形態と位置的關係 顎口腔系の機能
4	歯科補綴治療の基礎知識：1 歯列の形態と位置的關係 顎口腔系の機能
5	歯科補綴治療の基礎知識：2 咬合とその関連事項 顎関節症
6	歯科補綴治療の基礎知識：2 咬合とその関連事項 顎関節症
7	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 分類
8	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 分類
9	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
10	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
11	歯科補綴治療の臨床：1 クラウン 診療ステップ
12	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 構成と材料
13	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 構成と材料
14	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 臨床ステップ
15	歯科補綴治療の臨床：2 ブリッジ 臨床ステップ

16. 歯科予防処置論Ⅰ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第 1 学年 15 時間

担 当 教 員 名	蛭名 訓子 岸川 留利花
授 業 科 目 概 要	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識を学ぶ
目 的	歯科予防処置について専門知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科予防処置の概念と内容を概説できる ・ 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる ・ 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる ・ 歯周病予防を概説できる ・ う蝕予防を概説できる ・ 歯科予防処置を実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる ・ 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる ・ 歯・口腔の健康状態を把握するための項目を列挙できる ・ デンタルプラークの形成過程と成分を説明できる ・ 歯石の形成過程と成分を説明できる ・ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる ・ 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 分の 2 以上の出席を満了した者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第 2 版」（医歯薬出版） 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	I編 1章 ①歯科予防処置の必要性 ②歯科予防処置論の定義 ③歯科衛生士法における 歯科予防処置の位置づけ
2	I編 1章 歯科予防処置 ⑤予防の概念
3	II編 1章 ①口腔・口腔周囲の構造
4	II編 1章 ②歯周組織
5	II編 1章 ③歯冠と歯根の形態
6	II編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物
7	II編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物
8	II編 2章 ②う蝕
9	II編 2章 ②う蝕
10	II編 2章 ③歯周病
11	II編 2章 ③歯周病
12	II編 2章 ③歯周病
13	II編 3章 ⑥食品とう蝕誘発性
14	II編 3章 ⑦歯周病と食生活 ⑧酸蝕症と食生活
15	まとめ

17. 歯科予防処置実習（実務教員による講義・実習）

6単位（必修）

第1学年 1単位 （30時間）

担当教員名	窪田 康花 蛭名 訓子
授業科目概要	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を学ぶ
目的	歯科予防処置について専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プローブの種類と操作方法を説明できる ・スクレーラーの種類と使用目的を説明できる ・シクルタイプスクレーラーをマネキンで操作できる ・歯面研磨の意義を説明できる ・歯面研磨剤の種類と用途を説明できる ・歯面研磨をマネキンで操作できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」（医歯薬出版）
留意事項	

授業計画：第1学年

回	内 容
1	Ⅲ編 2章 エクスプローラーの使い方 歯周ポケット 歯の動揺度
2～4	Ⅲ編 2章 エクスプローラーの使い方 歯周ポケット 歯の動揺度 (マネキン)
5、6	Ⅲ編 3章 スケーリング
7、8	Ⅲ編 3章 スケーリング
9、10	Ⅲ編 3章 スケーリング (マネキン)
11、12	Ⅲ編 3章 スケーリング (マネキン)
13、14	Ⅲ編 3章 スケーリング (マネキン)
15、16	Ⅲ編 3章 スケーリング (マネキン)
17、18	Ⅲ編 3章 スケーリング (マネキン)
19、20	Ⅲ編 3章 スケーリング (マネキン)
21、22	Ⅲ編 3章 スケーリング (マネキン)
23、24	Ⅲ編 3章 歯面研磨
25、26	Ⅲ編 3章 歯面研磨 (マネキン)
27、28	Ⅲ編 3章 歯面研磨 (マネキン)
29、30	まとめ

18. 歯科保健指導論Ⅰ（実務教員による講義）

1 単位（必修）

第 1 学年 15 時間

担 当 教 員 名	窪田 康花
授 業 科 目 概 要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するための基本となる知識を学ぶ
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保健指導について基礎学問的な領域を理解する ・ 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者（個人、集団）の情報について収集方法を習得する ・ 食生活指導を行うために、専門的な知識、技術および態度を習得する
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保健指導の意義と特性を説明できる ・ 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる ・ 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる ・ 全身的な健康状態を把握できる ・ 対象者の生活習慣と生活環境を把握できる ・ 対象者の日常生活動作を把握できる ・ 食生活・食習慣の背景を説明できる ・ 健康を維持するための栄養情報を説明できる ・ 咀嚼の働きを説明できる
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90 点以上, 「優」：80 点以上, 「良」：70～79 点, 「可」：60～69 点, 「不可」：59 点以下
教 材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 「保健情報統計学」</p>
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1	I 編 1 章 ① 歯科保健指導の必要性 ② 歯科保健指導の定義 ③ 歯科衛生士法における 歯科保健指導の位置づけ
2	I 編 1 章 歯科保健指導 ④ 健康の概念
3	II 編 1 章 ④ 口腔の機能
4	II 編 1 章 ④ 口腔の機能
5	II 編 4 章 保健行動支援のための基礎知識
6	II 編 4 章 保健行動支援のための基礎知識
7	II 編 3 章 ① 国民の健康と栄養の現状 ② 栄養素の役割
8	II 編 3 章 ③ 栄養素の働き
9	II 編 3 章 ③ 栄養素の働き
1 0	II 編 3 章 ④ 栄養素の消化・吸収 ⑤ 食事摂取基準
1 1	II 編 3 章 ⑨ 咀嚼と食品 ⑩ 特別用途食品と保健機能食品
1 2	III 編 2 章 口臭
1 3	III 編 2 章 PCR
1 4	III 編 2 章 OHI、OHI-S
1 5	まとめ

19. 歯科保健指導実習（実務教員による講義・実習）

4単位（必修）

第1学年 1単位 （30時間）

担当教員名	菅原 和美
授業科目概要	人々の歯・口腔の健康を維持・増進するためにプロフェッショナル・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を学ぶ
目的	口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる ・口腔衛生管理に関する清掃器具を説明できる ・歯磨剤・洗口剤の特徴を説明できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上, 「優」：80点以上, 「良」：70～79点, 「可」：60～69点, 「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 「保健情報統計学」</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1～3	Ⅲ編 2章 ①患者（対象者）からの情報収集 ②全身の健康状態の把握 ③認知機能の把握
4～6	Ⅲ編 2章 ④生活環境と生活背景の把握 ⑤生活習慣の把握 ⑥口腔の器質的問題の把握
7～9	Ⅲ編 2章 歯面の付着物・沈着物
10～12	Ⅲ編 4章 ①口腔衛生管理に関わる指導 3章 フッ化物配合歯磨剤
13～15	Ⅲ編 4章 ブラッシング
16～18	Ⅲ編 4章 ブラッシング
19～21	Ⅲ編 4章 ブラッシング
22～24	Ⅲ編 4章 ブラッシング
25～27	Ⅲ編 4章 その他の清掃方法
28～30	Ⅲ編 4章 洗口液・洗口剤

20. 歯科診療補助実習（実務教員による講義・実習）

6単位（必修）

第1学年 2単位（60時間）

担当教員名	菅原 和美 岸川 留利花
授業科目概要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を学ぶ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する ・歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用方法を習得する
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる ・歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる ・フォーハンドシステムの基本動作ができる ・診療に応じたバキューム操作ができる ・消毒薬、各種滅菌器械・器具の準備ができる ・消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作・取り扱いができる ・模型用材料の種類と基本的性質を説明できる ・模型用材料の取り扱いができる ・合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる ・各種合着・接着材・仮着用材料の取り扱いができる ・印象材の種類と基本的性質を説明できる ・印象材を練和できる ・仮封材の種類と基本的性質を説明できる ・仮封材の取り扱いができる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」 第2版（医歯薬出版）</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科機器」（医歯薬出版）</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科材料」（医歯薬出版）</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1～3	歯科診療補助とは
4～6	器具・器材・材料の名称・用途 1（基礎編）
7～9	実習室の使用法
10～12	感染予防対策と滅菌 清潔域と不潔域、手指消毒
13～15	歯科診療補助基本 1 患者誘導、ポジション・姿勢・ライティング実習
16～18	歯科診療補助基本 2 バキューム実習
19～21	歯科診療補助基本 2 バキューム実習
22～24	歯科診療補助基本 2 バキューム実習
25～27	歯科材料実習（衛生材料） 綿花材の種類と取り扱い、ブローチ綿栓の取り扱い
28～30	歯科材料実習（石膏） 普通石膏の取り扱い
31～33	歯科材料実習（石膏） 石膏棒の作製
34～36	歯科材料実習（印象材） 各種印象材の取り扱い
37～39	歯科材料実習（印象材） 印象採得法 1
40～42	歯科材料実習（印象材） 印象採得法 2
43～45	歯科材料実習（印象材） 印象採得法 3
46～48	歯科材料実習（合着材・接着剤 1） 合着材・接着剤の取り扱い・稠度測定
49～51	歯科材料実習（合着材・接着剤 2） 合着材・接着剤の取り扱い・稠度測定
52～54	歯科材料実習 仮封材、修復材の取り扱い
55～57	歯科材料実習（印象材） 印象採得法 4
58～60	まとめ

2.1. 臨地実習・臨床実習（実務教員による実習）

20単位（必修）

第1学年 4単位（180時間）

担当教員名	窪田 康花 蛭名 訓子 菅原 和美 岸川 留利花
授業科目概要	歯科衛生士とは歯科診療所の中でどのような役割を担っているか。医療人の一員として、歯科衛生士はどのようにあるべきか、実際に働いている歯科衛生士を見て、自分がなりたい歯科衛生士像を考える。
目的	臨床の現場を見て医療人とはどうあるべきかを認識させる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフと協働し、連携のとれた対象者へのサービスができる ・プライバシーを配慮した態度で対応できる ・対象者の守秘義務を遵守できる ・診療室のルールを理解した行動ができる ・医療安全管理に配慮した行動ができる ・感染予防対策に応じた行動ができる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 <p>以上により総合評価を行い合否を判定する</p>
教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル ・これまでに使用したすべての教科書、プリント
留意事項	<p>実習に臨む心構えをきちんともちせし作法や身だしなみに注意させる。</p> <p>注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。</p>

授業計画：第1学年

回	内 容
1	歯科診療所 見学実習：1
2	歯科診療所 見学実習：2
3	歯科診療所 見学実習：3
4	歯科診療所 見学実習：4
5	歯科診療所 見学実習：5
6	歯科診療所 見学実習：6
7	歯科診療所 見学実習：7
8	歯科診療所 見学実習：8
9	歯科診療所 見学実習：9
10	歯科診療所 見学実習：10
11	歯科診療所 見学実習：11
12	歯科診療所 見学実習：12
13	歯科診療所 見学実習：13
14	歯科診療所 見学実習：14
15	歯科診療所 見学実習：15

シラバス

令和2年度 夜間部2年

学校法人 札幌青葉学園

 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
歯科衛生士学校教育課程		P2
授業実施計画表		P3
1	心理学	P4
2	歯科英語	P6
3	歯科情報処理	P8
4	病理学・口腔病理学	P10
5	衛生学・公衆衛生学	P12
6	口腔衛生学・歯科衛生統計	P14
7	歯科保存学	P16
8	歯周治療学	P18
9	歯科補綴学	P20
10	口腔外科学	P22
11	矯正歯科学	P24
12	歯科予防処置論Ⅱ	P26
13	歯科予防処置実習	P28
14	歯科保健指導論Ⅱ	P30
15	歯科保健指導実習	P32
16	栄養学・栄養指導	P34
17	歯科診療補助論Ⅰ	P36
18	介護技術	P38
19	歯科診療補助実習	P40
20	臨地実習・臨床実習	P42
21	歯科接遇作法	P44
22	医療保険事務	P46

歯科衛生士学校教育課程 夜間部

分野	教育内容	基準 単位数		科目名称	単位数	学年別授業時間数			単位授業数 時間数
						1	2	3	
基礎分野	科学的思考の基礎	10	1	生物学	2	30			30
			2	生化学	2	30			30
	3		基礎数学	1	20			20	
	4		国語	2	30			30	
	5		心理学	1		15		15	
	6		歯科英語	1		15		15	
	7		歯科情報処理	1		15		15	
	小計	10			10	110	45	0	155
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	8	解剖学・組織発生学・生理学	3	45			45
	歯・口腔の構造と機能		9	口腔解剖学	2	30			30
			10	歯牙解剖学	2	30			30
	疾病の成り立ちと回復の促進		11	口腔生理学	2	30			30
			12	病理学・口腔病理学	2		30		30
			13	薬理学・口腔薬理学	2	30			30
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		14	微生物学・口腔微生物学	2	30			30
15		衛生行政・社会福祉	2			30	30		
16		衛生学・公衆衛生学	2		15	15	30		
17		口腔衛生学・歯科衛生統計	3	30	15		45		
	小計	22			22	225	60	45	330
専門分野	歯科衛生士概論	54	18	歯科衛生士概論	1	15			15
			19	歯科臨床概論	1	15			15
	臨床歯科医学		20	歯科保存学	2	15	15		30
			21	歯周治療学	1		20		20
			22	歯科補綴学	2	15	15		30
			23	口腔外科学	1		20		20
			24	小児歯科学	1			20	20
			25	矯正歯科学	1		20		20
			26	障害者歯科・高齢者歯科	1			20	20
	歯科予防処置論		27	歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15
			28	歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15
			29	歯科予防処置実習	6	30	90	60	180
	歯科保健指導論		30	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15
			31	歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15
			32	歯科保健指導実習	4	30	30	60	120
			33	栄養学・栄養指導	1		15		15
	歯科診療補助論		34	歯科診療補助論Ⅰ	1		15		15
35		介護技術	1		15		15		
36		臨床検査法	1			15	15		
37		歯科診療補助実習	6	60	60	60	180		
臨床実習・臨床実習	20	38	臨床実習・臨床実習	20	180	405	315	900	
	小計	54			55	390	750	550	1690
選択必修分野	7単位を選択	7	39	歯科接遇作法	1		15		15
			40	摂食機能訓練法	1			15	15
			41	医療保険事務	1		15		15
			42	多職種連携医療	1			15	15
			43	総合学習Ⅰ	1			15	15
			44	総合学習Ⅱ	1			15	15
			45	総合学習Ⅲ	1			15	15
	小計	7			7	0	30	75	105
合計		93			94	725	885	670	2280
必修科目単位数(時間数)					87	725	855	595	2175
選択科目単位数(時間数)					7	0	30	75	105

単位について

ア.講義は基礎分野・専門分野については1単位 15H

イ.基礎実習については1単位 30H

ウ.臨床実習・隣地実習については1単位 45H

1. 心理学

1 単位 (必修)

第 2 学年 15 時間

担当教員名	後藤 聡
授業科目概要	心理学の分野は多岐にわたっている。その中から、本授業では人間関係や社会との関わりについての内容を扱う。日常の人間関係や社会との関わりで生じる心理現象、カウンセリングという人間関係における話の聴き方について論じる。毎回異なったテーマを設け、理論、具体的事例、科学的根拠となる実証的研究成果などを含めて、アクティビティや発問などを取り入れながら授業を展開する。
目的	医療スタッフや患者との対人関係を円滑にするための技法を身につける。
学習目標	医療の場では人間関係が不可欠である。その対象となる人間と良好な関係を形成し、維持するためには、相手を理解することだけでは不十分である。人間関係の場面や社会から生じる自分の心理状況、話の聴き方と話し方が相手に対してどのように影響するのかを知り、必要に応じて自分を望ましい方向へ調整することも必要である。以上を考慮して本講義での目標を以下とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の人間関係や社会の中で生じる心理現象について理解する。 ・ 人間関係において自分に生じる心の状態に気づく。 ・ 医療の対象である人間の理解に役立てる。 ・ 患者との良好な関係を形成、維持するため、授業内容を役立てられるように応用的な思考を経験する。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 70% 提出物 30% 受講態度 (私語や講義と関係ない行為を行った場合は減点することがある。) ・ 「秀」 : 90 点以上, 「優」 : 80 点以上, 「良」 : 70~79 点, 「可」 : 60~69 点, 「不可」 : 59 点以下
教材	自作のプリント
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容に関する疑問がある場合は積極的に質問をすること。 ・ 私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。

授業計画：講義

回	内 容
1	ガイダンス 思考を柔軟にするトレーニング
2	テーマ：同調行動と集団的無知
3	テーマ：自己呈示
4	テーマ：自己呈示
5	テーマ：ステレオタイプと偏見
6	テーマ：ステレオタイプと偏見
7	テーマ：対人認知
8	テーマ：対人認知
9	テーマ：社会的ジレンマ
10	テーマ：社会的ジレンマ
11	テーマ：社会的現実
12	テーマ：社会的現実
13	テーマ：カウンセリングの視点による対話の基本的態度
14	テーマ：カウンセリングの視点による対話の基本的態度
15	テーマ：カウンセリングの視点による対話の基本的態度

2. 歯科英語

1 単位 (必修)

第 2 学年 15 時間

担 当 教 員 名	孔 令群
授 業 科 目 概 要	高等学校までに学習した英語力をもとにして、歯科関連の文章を読む能力、語彙への理解力、応用力及び歯科衛生士として必要な英語コミュニケーション能力を育成する。
目 的	診療室でおもにとりかわされるであろう基礎的会話力を身につける。さらに歯科常用英語の書き、読み、聴きを習得させ、積極的に英語の歯科臨床への応用力を育成する。
学 習 目 標	<p>〈一般目標〉</p> <p>英語を聞き話す基礎力をしっかり身につけ、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識を育成する。</p> <p>〈行動目標〉</p> <p>【リスニング】</p> <p>通常スピードの英会話を聞き取れるようになる。</p> <p>【スピーキング】</p> <p>正しい発音で英会話できる。</p> <p>正しいイントネーションで英会話できる。</p> <p>正しいリズムで英会話できる。</p> <p>【歯科用語】</p> <p>英語の歯科用語の意味がわかる。</p> <p>英語の歯科用語の発音がわかる。</p> <p>英語の歯科用語が現場で応用できる。</p>
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 講義終了後に筆記試験を行う ・ 講義に対する取り組み方・学習態度も評価の対象となる ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80 点以上，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教 材	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医院での実用英会話 第 2 版 音声 DL 付き 2. 自主教材
留 意 事 項	A V 教材を活用する。

授業計画：講義

回	内 容
1、2	1. 歯科衛生士のための実用英会話 ① 受付での電話対応 2. 歯科重要単語 〈① 歯科に携わるもの〉
3、4	1. 歯科衛生士のための実用英会話 ②受付での初診対応 2. 歯科重要単語 〈② 歯科学〉
5、6	1. 歯科衛生士のための英会話 ③問診 2. 歯科重要単語 〈③ 検査〉
7、8	1. 歯科衛生士のための実用英会話 ④歯周病 2. 歯科重要単語 〈④ 部位の名称〉
9、10	1. 歯科衛生士のための実用英会話 ⑤歯周検査 2. 歯科重要単語 〈⑤ 痛みの分類〉
11、12	1. 歯科衛生士のための英会話 ⑥ブラッシング指導 2. 歯科重要単語 〈⑥ 全身疾患〉 〈⑥ 歯科疾患〉
13、14	1. 歯科衛生士のための英会話 ⑦スケーリング 2. 歯科重要単語 〈⑦ 歯科治療〉
15	1. 歯科衛生士のための英会話 ⑧抜歯 2. 歯科重要単語 〈⑧ 歯の名称〉

3. 歯科情報処理(実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第 2 学年

15 時間

担 当 教 員 名	猪口 愛弓
授 業 科 目 概 要	コンピュータ社会の現代では歯科衛生士であってもコンピュータ操作は必須であり、その中でもWordとExcelは使いこなしたいソフトである。 本講義ではコンピュータの基礎的知識からWord、Excelの操作までを行う。
目 的	IT社会に対応する力を育成することを目的とする。
学 習 目 標	1. ブラインドタッチでWord、Excelが使える。 2. 文書やチラシが作成できる。 3. データベースの作成ができる。 4. 統計処理ができる。 5. データに適したグラフを選択できる。 6. ウィンドウの名称、活用法が理解できる。 7. Powerpointを使ってスライドを作成することができる。
成 績 評 価 方 法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90 点以上, 「優」: 80 点以上, 「良」: 70~79 点, 「可」: 60~69 点, 「不可」: 59 点以下
教 材	適宜プリント配付
留 意 事 項	常にホームポジションを心がけること。

授業計画：

回	内 容
1	コンピュータの基礎知識 パソコンの起動、終了 OSについて マウスの基本操作 ウィンドウの画面の基本操作
	ファイルとフォルダ Wordで出来ること 文字の入力 ホームポジション
2	Word演習①
3	Word演習②
4	Word演習③
5	Word演習④
6	Excel演習①
7	Excel演習②
8	Excel演習③
9	Excel演習④
10	Powerpoint演習①
11	Powerpoint演習②
12	Powerpoint演習③
13	Powerpoint演習④
14	Powerpoint演習⑤
15	まとめ

4. 病理学・口腔病理学

1 単位 (必修)

第 2 学年

1 5 時間

担 当 教 員 名	進藤 正信
授 業 科 目 概 要	病理学は疾患の病態を解明する学問です。病態とは、疾患の原因、経過、転帰であり、その解明手法は機能的および形態学的検索に基礎をおいていますが、分子生物学的方法（遺伝子など）も取り入れられ、多岐に及んでいます。授業において、病理学総論では、代謝障害、病変の修復、遺伝子異常、循環障害、炎症、腫瘍などと分類された疾患の概要を学びます。口腔病理学では、口腔に特異的な疾患の病態および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概念を学びます。
目 的	主な疾患の発生・経過・予後について学び、さらに歯科衛生士として必要な口腔に特異的な疾患および全身疾患が口腔領域へ発現する際の病態の概要を理解する。さらに医療行為（処置）による病変の治癒経過ならびに副作用について概要を理解する。
学 習 目 標	<p>【一般概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もの見方と考え方および見方の心理を理解し、ヒトの病変への対応に反映させる。 ・機能の変化は形態の変化に現れ、形態の変化は機能の変化をもたらすことを理解する。 <p>【病理学総論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞と組織の形態学的変化、機能的変化を理解する。 ・病気の原因について、内因と外因の代表的なものについては概要を説明できる。 ・遺伝、染色体、遺伝子、DNA、RNA の概要を説明できる。代表的な遺伝性疾患を理解する。 ・代謝疾患を理解し、その代表的な疾患について説明できる。 ・細胞や組織が傷害を受けた時の変化とその治癒過程を説明出来る。 ・循環障害を理解し、その代表的疾患について説明できる。 ・炎症を理解し、関与する細胞やその代表的疾患について説明できる。 ・免疫とは何か、アレルギーや代表的免疫疾患について説明できる。 ・奇形とは何か、原因を理解する。 ・腫瘍とは何か、原因、発生過程、悪性腫瘍（がん）と良性腫瘍の相違を理解する。代表的な腫瘍について説明できる。 <p>【口腔病理学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔粘膜創、抜歯創の治癒過程を説明できる。 ・口腔粘膜病変の代表的な疾患の概要を説明できる。 ・口腔領域の嚢胞と腫瘍の分類を理解し、代表的な嚢胞と腫瘍の概要および成り立ちを説明できる。 ・顎骨の病変、唾液腺の病変を理解し、代表的な病変を説明できる。 ・口腔領域の奇形の成り立ちを理解できる。 ・ 口腔組織の加齢変化を説明できる。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験（単位認定試験、小試験） ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90 点以上、「優」：80 点以上、「良」：70～79 点、「可」：60～69 点、「不可」：59 点以下
教 材	最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学. プリント.
留 意 事 項	

授業計画：

回	内 容
1	総論 1 章 病理学序論と病因論 ：病理学とは、病態とは、病理学の歴史、医学の中の病理学の位置づけ、死とは、 ：形態と機能の関連、形態・色調の見方・考え方、視覚（色・形）の心理学、：病因論（病気の原因、内因、外因）
2	総論 2 章 遺伝性疾患と奇形 ：遺伝とは、ヒトの染色体とは、：遺伝性疾患、全身の奇形、顎口腔領域の奇形
3	総論 3 章 循環障害 1 ：循環系の概要：循環異常（充血とうっ血、出血と止血、血液凝固と血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫、ショック、DIC）
4	総論 3 章 循環障害 2 ：循環系の異常と疾患（高血圧、動脈硬化、心疾患、脳血管障害）
5	総論 4 章 代謝障害と退行性病変 ：細胞障害（変性・萎縮、壊死、アポトーシス）
6	総論 4 章 代謝障害と退行性病変 ：代謝異常（脂質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患）
7	総論 5 章 増殖と修復 ：細胞の適応（肥大、増生、化生）：再生と修復（異物処理、肉芽組織、創傷治癒）
8	総論 6 章 炎症と免疫応答異常 ：炎症（炎症の役割、炎症に関与する細胞、炎症の経過と種類）：感染症（細菌感染症、ウイルス感染症）
9	総論 6 章 炎症と免疫応答異常 ：免疫（免疫応答、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全）：移植と再生医療
1 0	総論 7 章 腫瘍 1 ：腫瘍の疫学、腫瘍と遺伝子異常、腫瘍の種類と性質、
1 1	総論 7 章 腫瘍 2 ：日本における悪性腫瘍、腫瘍を誘発する環境因子、腫瘍の治療
1 2	各論 7 章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 ：炎症性嚢胞と発育性嚢胞、歯源性嚢胞と非歯源性嚢胞：歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍 各論 8 章 口腔癌 ：口腔癌の疫学、口腔前癌病変、口腔扁平上皮癌
1 3	各論 9 章 顎骨の病変、 ：顎骨の炎症性病変、骨粗鬆症、顎骨の腫瘍様病変、顎関節症
1 4	各論 6 章 口腔粘膜の病変 ：退行性病変、化学的・物理的障害、原因不明粘膜疾患、感染性疾患、皮膚科的疾患
1 5	各論 10 章 唾液腺の病変 ：唾液腺の構造と機能、唾液腺の退行性病変、唾液腺炎、シェーグレン症候群、唾液腺腫瘍

5. 衛生学・公衆衛生学

2単位(必修)

第2学年 1単位 (15時間)

担当教員名	兼平 孝
授業科目概要	<p>人の健康と疾病予防の概念について学ぶ</p> <p>人の健康問題とそれに関わる環境について学ぶ</p> <p>疫学的手法を学び、疾病・異常の予防対策について学ぶ</p> <p>地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや方法について学ぶ</p>
目的	衛生学・公衆衛生的な考え方や知識を活用し、集団あるいは地域社会の健康レベルを増進することを目的とする。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と家族の健康を守る能力の向上をはかるとともに、医療人として、地域の人々の健康を守る人(職種)であるという意識の向上をはかる ・日常生活や予防の視点から、健康増進や、疾病の原因と予防について理解し、健康問題とそれに関わる要因についての理解を深めて問題解決に必要な判断力と行動力を養う ・地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、その方法を習得する <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い視野を持って、健康にかかわる社会の出来事(ニュース)に関心を持つ ・健康や病気には多くの要因が関わることを知り、その知識と理解を深める ・日常の生活習慣や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己の健康を管理することができる ・地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を習得する
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 「保健生態学」第2版</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 「保健情報統計学」</p> <p>【参考図書】</p> <p>シンプル衛生公衆衛生学(南江堂)</p> <p>スタンダード衛生公衆衛生学(学建書院)</p>
留意事項	

授業計画：第2学年

回	内 容	
1、2	総論	衛生とは、歯科衛生士とは、健康の概念、予防医学の概念
3	疫学・1	疫学とは、疾病異常（健康障害）の発生要因、5W-1
4、5	疫学・2	疫学の方法論、統計資料の見方
6	人口	人口構造、少子化と高齢化、出生率、平均余命と平均寿命
7、8	環境と健康・1	環境と健康の概念、生活環境（空気、温熱環境、水など）
9	環境と健康・2	上水道と下水処理、廃棄物処理、環境保全
10、11	感染症・1	感染と発病、感染の三大要因、感染予防とその対策
12	感染症・2	おもな感染症の動向とその予防 ①
13、14	感染症・3	おもな感染症の動向とその予防 ②
15	感染症・4	おもな感染症の動向とその予防 ③

6. 口腔衛生学・歯科衛生統計

3単位（必修）

第2学年 1単位 （15時間）

担当教員名	兼平 孝
授業科目概要	口腔衛生学は、歯科医学においては基礎に位置づけられる科目であるが、様々な予防処置や保健指導などの臨床的な内容、公衆歯科衛生や地域歯科保健活動などの社会歯科学的内容も多い。歯や口腔の正常な状態、機能に加えて、う蝕や歯周病、その他の口腔疾患の原因と予防法を学ぶことで、国民の口腔の健康増進を図ることを目的とする。
目的	歯科予防処置及び歯科保健指導の基礎となる口腔衛生学を学ぶことにより、予防処置や保健指導などの実践に役立てる。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>口腔衛生学の内容を確実に理解し、臨床現場のみならず広く社会で実践することは歯科衛生士の基本的任務である。そのため、口腔衛生学を講義や実習から興味と意欲をもって十分学び、う蝕や歯周病等の予防的処置や保健指導、地域の歯科保健活動に参画できるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 口腔衛生学の位置づけ、意義を理解する ② 予防や保健、健康増進の概念・意義を理解する ③ 第一次予防、第二次予防、第三次予防について理解する ④ 歯や口腔の正常像、機能を理解する ⑤ 口腔の不潔と口腔清掃について理解する ⑥ う蝕や歯周病の原因と予防法について学ぶ ⑦ 不正咬合や口臭、その他の口腔疾患の原因と予防法について学ぶ ⑧ 公衆歯科衛生の概念および地域歯科保健活動について理解する ⑨ 歯科疾患を表現する各種の指数と疫学について学ぶ ⑩ 得られたデータを統計処理する方法について学ぶ ⑪ 地域の歯科保健状況を分析する方法について学ぶ ⑫ 地域に必要な歯科保健対策を立案する方法について学ぶ ⑬ 地域の歯科保健活動を実施する方法について学ぶ
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満した者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 「保健生態学」第2版</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 「保健情報統計学」</p> <p>【参考図書】</p> <p>口腔保健学第2版（医歯薬出版） 新予防歯科学第4版（医歯薬出版） スタンダード口腔保健学（学建書院）</p>
留意事項	

授業計画：第2学年

回	内 容	
1、2	地域歯科保健活動（1）	①主な活動分野 ②政策決定のための条件 ③集団検診と事後措置 ④保健教育 ⑤現場活動の場面
3、4	地域歯科保健活動（2）	⑥母子歯科保健
5、6	地域歯科保健活動（3）	⑦学校歯科保健
7、8	地域歯科保健活動（4）	⑧産業歯科保健 ⑨成人歯科保健活動
9、10	地域歯科保健活動（5）	⑩老人歯科保健 ⑪国際歯科保健
11、12	歯科疾患の疫学（1）	①疫学の基礎
13、14	歯科疾患の疫学（2）	②歯科疾患の疫学
15	歯科衛生統計	①標本調査 ②実際の統計処置

7. 歯科保存学

2単位（必修）

第2学年 1単位（15時間）

担当教員名	渡邊 千春 加納 明穂
授業科目概要	<p>歯科の二大疾患の一つである齲蝕を扱う科目であり、「保存修復学」「歯内療法学」に分けられる。</p> <p>「保存修復学」では、歯の硬組織疾患と、これに対しての成形修復、鑄造修復などの各種治療法、臨床術式について説明する。</p> <p>「歯内療法学」では歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその病状、これらに対する歯髄保存療法、歯内療法、外科的歯内療法、歯の漂泊などの各種治療法と臨床術式について説明する。</p>
目的	硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性疾患の病態とその症状を知り、各疾患に対する治療法とその内容を理解、熟知し、歯科保存治療に対する歯科衛生士の役割とチーム医療を実践するための必要な知識を習得する。
学習目標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保存治療の対象疾患を列挙できる。 ・ 歯科保存治療における診査方法について説明できる。 ・ 歯の痛みの種類と由来を説明できる。 ・ 齲蝕の病態と形成形態、窩洞の分類と具備すべき条件を説明できる。 ・ 歯髄疾患、根尖性歯周疾患を列挙し、それぞれの病態と治療方針について説明できる。 ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 外科的歯内療法の種類、目的、器具、器材、前準備、臨床術式、術後管理を説明できる。 ・ 歯の変色の原因を分類、説明できる。 ・ 歯の漂白の方法について理解できる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）
留意事項	<p>あらかじめ教科書を読んで授業に臨むこと。</p> <p>事前に資料の配布等があった場合は、各自予習しておくこと。</p>

授業計画：第2学年

回	
1、2	歯内療法学 歯髄疾患：分類、症状、診断
3、4	歯髄の保存療法 歯髄鎮静療法、歯髄覆罩法
5、6	歯髄の除去療法 分類、術式、必要な器具
7、8	感染根管処置 分類、術式、必要な器具
9、10	外科的歯内療法
11、12	歯内療法における偶発症
13、14	歯内療法に使用する薬剤
15	歯の漂白

8. 歯周治療学

1単位(必修)

第2学年 20時間

担当教員名	中谷 充宣
授業科目概要	歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病態と原因、その予防と治療法について学ぶ。 歯周疾患における診査、診断、基本治療、歯周外科処置、再生治療、メンテナンス等について学習する。
目的	歯周病の罹患率が高い現在、歯周治療は歯科衛生士としての実力がもっとも問われる分野である。予防や治療の方法を学び、その目的や理論を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	歯周治療に際し、基礎知識を理解した上で、それぞれの病態に応じた治療法を理解できるようにする。 併せて歯科衛生士の役割、予防とメンテナンスの重要性を認識する。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	教科書: 最新歯科衛生士教本 「歯周疾患歯周治療」第2版(医歯薬出版)
留意事項	関連教科である組織発生学、口腔解剖学、微生物学もしっかり学ぶこと。

授業計画: 講義

回	内容
1、2	歯周治療の基礎知識 歯周病の現状、歯周治療における歯科衛生士の役割 歯周組織の構造 歯周組織の機能
3、4	歯周治療の基礎知識 歯周疾患の病態 歯周疾患の原因と発症のメカニズム バイオフィルム、修飾因子、プラキシズム 生活習慣と全身性因子
5、6	歯周治療の実際 歯周治療の進め方 診査、診断、治療計画の立案 インフォームドコンセント 歯周疾患の診査と診断 問診、一般診査、X線診査

回	内 容
7、8	歯周治療の実際 歯周組織検査 咬合診査 模型、口腔内写真 ブラキシズムについて 基本治療1 モチベーションの方法と実際、生活習慣指導
9、10	歯周治療の実際 基本治療2 ブラークコントロール、スケーリング、スケーラー、キュレットの基本操作 ルートプレーニング、歯面研磨、知覚過敏処置
11、12	歯周治療の実際 咬合調整と暫間固定 歯周外科処置1 外科的歯周治療の目的、基本手技と使用器具 ポケット搔爬術、新付着術
13、14	歯周治療の実際 歯周外科処置2 歯肉切除術、フラップ手術 歯肉歯槽粘膜外科手術、組織再生誘導法
15、16	歯周治療の実際 薬物療法 咬合性外傷に対する治療法 咬合調整、ナイトガード、固定法 矯正治療
17、18	歯周治療の実際 歯周治療後のメンテナンス メンテナンスにおける歯科衛生士の役割 患者管理 病状の理解、心理状態の把握、治療後の援助
19、20	器具の消毒法 まとめ

9. 歯科補綴学

2単位 (必修)

第2学年 1単位 (15時間)

担 当 教 員 名	櫻井 泰輔
授 業 科 目 概 要	補綴治療に必要な口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎を学ぶ。 クラウン、ブリッジ、有床義歯に代表される各種補綴物の構成、材料について学び、併せて補綴物が装着されている口腔の衛生指導法を習得する。 また、補綴治療に際しての診療室での治療と技工室での技工操作との関連性についても学ぶ。
目 的	歯の欠損、喪失に続いて生じる弊害を理解する。 人工物 (補綴装置) を用いて口腔の諸機能及び外観を回復する過程を理解する。
学 習 目 標	口腔の機能、咬合、顎関節などの基礎が理解できる。 補綴治療による形態および口腔諸機能の回復について説明できる。 回復した形態および機能を維持するために必要な口腔衛生指導を身に付ける。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教 材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 「歯科補綴学」 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画：第2学年

回	内 容
1	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 分類と構成 臨床ステップ
2	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 分類と構成 臨床ステップ
3	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 臨床ステップ
4	歯科補綴治療の臨床：3 部分床義歯 臨床ステップ
5	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 構成要素
6	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 構成要素
7	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
8	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
9	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
10	歯科補綴治療の臨床：4 全部床義歯 臨床ステップ
11	歯科補綴治療に用いられる器材とその管理
12	歯科補綴治療に用いられる器材とその管理
13	即時義歯 暫間義歯 治療義歯 オーバーデンチャー 補綴装置の補修、除去 下顎運動および咬合機能検査
14	即時義歯 暫間義歯 治療義歯 オーバーデンチャー 補綴装置の補修、除去 下顎運動および咬合機能検査
15	インプラント

10. 口腔外科学

1 単位 (必修)

第2学年 20時間

担当教員名	北川 善政
授業科目概要	口腔顎顔面領域には、炎症、外傷、形態異常、腫瘍、嚢胞など様々な疾患が発生し、その中には、口腔に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身の部分症状として現れる疾患がある。このように口腔外科は、医科と歯科の境界領域を担う科目である。それぞれの原因、病態と症状・所見との関係、診断法、治療法について理解し、歯科衛生士としての診療における役割と実際面について習得する。
目的	口腔外科領域の主な疾患と術式を理解し、口腔外科手術の準備、介助、術後のケアについて理解する。
学習目標	1) 口腔外科疾患の処置・手術に当たっては、病気の全体像（発病因と予後）を把握した上で介助を行うことができる。 2) 種々の口腔疾患に対する口腔外科手術の術式を理解し、口腔疾患を取り扱う上での歯科衛生士の役割を認識する。 3) 簡単な検査結果を正しく理解し、処置・手術時の不快症状（バイタルサイン）に早急に対応できる認識能力をつける。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	【教科書】 最新歯科衛生士教本 「口腔外科学・歯科麻酔学」（医歯薬出版）
留意事項	

授業計画：講義

回	内容
1、2	I編 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科 1章 口腔外科の概要 2章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常
3、4	3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害 4章 口腔粘膜の病変
5、6	5章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患

回	内 容
7、8	7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 8章 唾液腺疾患
9、10	9章 口腔領域の神経疾患 10章 口腔外科診療の実際 ①口腔外科治療の流れ ②診療と診断 ③清潔と不潔 ④創傷の処置
11、12	⑤口腔外科小手術 ⑥止血処置 ⑦縫合処置 II編 歯科治療と歯科麻酔 1章 歯科治療における歯科麻酔と患者管理
13、14	2章 局所麻酔 3章 精神鎮静法
15、16	4章 全身麻酔 5章 救急蘇生法
17、18	III編 口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり 1章 検査・診断時の業務 2章 口腔外科・歯科麻酔処置における業務
19、20	3章 歯科衛生士が行う術前・術後のケアと器材の管理 まとめ

11. 矯正歯科学

1単位（必修）

第2学年 20時間

担当教員名	工藤 悠介
授業科目概要	正常咬合と咬合異常、診査、診断、治療方法、治療計画について学習する。
目的	咬合、診断法、治療の術式および、長期にわたる治療やフォローについて理解する。
学習目標	① 正常咬合と咬合異常を理解し説明できる。 ② 咬合異常の治療の種類を理解し、内容を説明できる。 ③ 使用器材の名称および使用方法を説明できる。 ④ 矯正装置の名称および使用方法を説明できる。 ⑤ 矯正装置のメカニクスを説明できる。 ⑥ 矯正治療における診療補助の前準備、術式、使用器材、メンテナンス、注意点を説明できる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 「矯正歯科学」(医歯薬出版)
留意事項	

授業計画：講義

回	内容
1、2	第1章 歯科矯正学概論 第2章 成長・発育 ①
3、4	第2章 成長・発育 ②
5、6	第3章 咬合 ①

回	内 容
7、8	第3章 咬合 ② 第4章 口腔習癖
9、10	第5章 矯正治療の生物力学
11、12	第7章 矯正治療に使用する機材とその使い方
13、14	第8章 矯正装着
15、16	第9章 保定 第6章 矯正診断に関する知識
17、18	まとめ ①
19、20	まとめ ②

12. 歯科予防処置論Ⅱ(実務教員による講義・実習)

1単位(必修)

第2学年 15時間

担当教員名	岸川 留利花
授業科目概要	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を学ぶ
目的	う蝕予防を予防するために宿主の原因や検査方法について専門的な知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる ・う蝕と全身疾患の関連を説明できる ・う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性、および便宜性を説明できる ・う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる ・う蝕活動性試験を実施できる ・対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)、プリント</p>
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1	Ⅱ編 3章 2. 食品とう蝕誘発性 1) う蝕は食生活習慣病 2) 砂糖とう蝕の関連性
2	Ⅱ編 3章 2. 食品とう蝕誘発性 3) 食品のう蝕誘発性 4) 代用甘味料
3	Ⅱ編 3章 2. 食品とう蝕誘発性 4) 代用甘味料 5) う蝕予防のための食品の接種方法
4	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 1) う蝕活動性とは 2) う蝕活動性試験の意義・条件・目的
5	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 3) う蝕発病因子の評価法の種類と特徴
6	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 4) う蝕活動性試験の実際
7	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 4) う蝕活動性試験の実際
8	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 4) う蝕活動性試験の実際
9	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 4) う蝕活動性試験の実際
10	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 4) う蝕活動性試験の実際
11	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 4) う蝕活動性試験の実際
12	Ⅲ編 2章 3. う蝕活動性試験 5) う蝕活動性試験の評価結果に基づく予防と治療
13	Ⅲ編 2章 4. 歯周病に関連する検査
14	まとめ
15	まとめ

13. 歯科予防処置実習(実務教員による講義・実習)

6単位(必修)

第2学年 3単位 (90時間)

担当教員名	窪田 康花 蛭名 訓子
授業科目概要	歯周病やう蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を学ぶ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・中～重度歯周病予防のために専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する ・う蝕予防法のフッ化物、小窩裂溝填塞の専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キュレットタイプスケーラーを操作できる ・超音波スケーラーを操作できる ・エアスケーラーが操作できる ・シャープニングができる ・歯面清掃の意義を説明できる ・歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる ・歯面清掃ができる ・フッ化物の使用薬剤の種類と濃度、およびその取り扱い方を説明できる ・フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる ・フッ化物歯面塗布の術式を説明できる ・フッ化物歯面塗布を実施できる ・フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる ・フッ化物洗口法の対象年齢と洗口方法を説明できる ・フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる ・小窩裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる ・小窩裂溝填塞の適応歯を説明できる ・小窩裂溝填塞の術式を説明できる ・小窩裂溝填塞を実施できる ・小窩裂溝填塞実施上の注意点を説明できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	<p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯周疾患歯周治療」第2版(医歯薬出版)</p>
留意事項	

授業計画：第2学年

回	内 容
1～3	Ⅲ編 3章 ③術後の洗浄
4～6	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
7～9	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
10～12	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
13～15	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
16～18	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
19～21	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
22～24	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
25～27	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
28～30	Ⅲ編 3章 (2) キュレットスケーラー
31～33	Ⅲ編 3章 6) シャープニング
34～36	Ⅲ編 3章 6) シャープニング
37～39	Ⅲ編 3章 6) シャープニング
40～42	Ⅲ編 3章 2. 超音波スケーラー
43～45	Ⅲ編 3章 2. 超音波スケーラー
46～48	Ⅲ編 3章 2. 超音波スケーラー
49～51	Ⅲ編 3章 2. 超音波スケーラー
52～54	Ⅲ編 3章 3. エアスケーラー
55～57	Ⅲ編 3章 3. エアスケーラー
58～60	Ⅲ編 3章 3. エアスケーラー
61～63	Ⅲ編 3章 ②歯面清掃
64～66	Ⅲ編 3章 ②歯面清掃
67～69	Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用
70～72	Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用
73～75	Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用
76～78	Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用
79～81	Ⅲ編 3章 ⑤小窩裂溝填塞法
82～84	Ⅲ編 3章 ⑤小窩裂溝填塞法
85～87	Ⅲ編 3章 ⑤小窩裂溝填塞法
88～90	まとめ

1 4. 歯科保健指導論Ⅱ(実務教員による講義)

1 単位 (必修)

第 2 学年 1 5 時間

担 当 教 員 名	窪田 康花
授 業 科 目 概 要	対象とする人の歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決するための過程を学ぶ
目 的	対象者別の指導方法について専門的知識と技術を習得する目的と意義を理解するために、その概要について習得する
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる ・歯科衛生過程を概説できる ・歯科衛生アセスメントを説明できる ・歯科衛生計画を説明できる ・歯科衛生診断を説明できる ・歯科衛生介入を説明できる ・歯科衛生業務記録の意義を説明できる ・歯科衛生過程における評価を説明できる ・各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90 点以上, 「優」:80 点以上, 「良」:70～79 点, 「可」:60～69 点, 「不可」:59 点以下
教 材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版」(医歯薬出版)</p>
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1	Ⅲ編 1章 ①歯科衛生過程の基本的な考え方
2	Ⅲ編 1章 ②歯科衛生過程の6つの構成要素
3	Ⅲ編 1章 ③歯科衛生過程の展開例
4	Ⅲ編 1章 ③歯科衛生過程の展開例
5	Ⅲ編 2章 ①患者（対象者）からの情報収集
6	Ⅳ編 1章 ①妊産婦期
7	Ⅳ編 1章 ②新生児期・幼児期
8	Ⅳ編 1章 ③幼児期
9	Ⅳ編 1章 ④学齢期
10	Ⅳ編 1章 ⑤青年期
11	Ⅳ編 1章 ⑥成人期
12	Ⅳ編 1章 ⑦老年期
13	Ⅳ編 1章 ⑧要介護高齢者
14	Ⅳ編 1章 ⑨障害者
15	まとめ

15. 歯科保健指導実習(実務教員による講義・実習)

4単位(必修)

第2学年 1単位 (30時間)

担当教員名	岸川 留利花
授業科目概要	患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための、医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務に実施に必要な口腔内検査、画像検査および全身の一般検査の意義と関連を学ぶ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健指導の遂行に必要な、対象者の情報について収集方法を習得する ・生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内カメラを操作できる ・口腔内写真から問題点を抽出することができる ・食生活指導と支援ができる ・禁煙指導と支援ができる ・ファントム模型を使用し、ブラッシング指導をすることができる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70~79点,「可」:60~69点,「不可」:59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版」(医歯薬出版)</p>
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	Ⅲ編 3章 ⑦食生活指導（栄養指導）の進め方
2	Ⅲ編 3章 ⑦食生活指導（栄養指導）の進め方
3	Ⅲ編 3章 ⑦食生活指導（栄養指導）の進め方
4	Ⅲ編 3章 ⑧喫煙者に対する指導
5	Ⅲ編 3章 ⑧喫煙者に対する指導
6	Ⅲ編 3章 ⑧喫煙者に対する指導
7	Ⅲ編 3章 ⑧喫煙者に対する指導
8	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真
9	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真
10	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真
11	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真
12	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真
13	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真
14	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真 相互実習
15	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真 相互実習
16	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真 相互実習
17	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真 相互実習
18	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真 相互実習
19	Ⅲ編 2章 ③分析のためのデータ 2. 画像 口腔内写真 相互実習
20	口腔内写真の分析、問題抽出
21	口腔内写真の分析、問題抽出
22	口腔内写真の分析、問題抽出
23	口腔内写真の分析、問題抽出
24	発表
25	発表
26	発表
27	様々な歯列に対してのブラッシング指導（ファントム模型）
28	様々な歯列に対してのブラッシング指導（ファントム模型）
29	様々な歯列に対してのブラッシング指導（ファントム模型）
30	まとめ

16. 栄養学・栄養指導

1単位（必修）

第2学年 15時間

担当教員名	加藤 幾子
授業科目概要	日本人の食事摂取基準の意義を理解し、各栄養素の消化・吸収・代謝と栄養的な特徴を理解する。 又正しい食生活の意義を理解し歯科臨床現場における栄養指導法を学ぶ
目的	対象者がこれまでの食生活上の問題点を自覚し、積極的かつ自発的にそれを改善すべく指導できるようにする。
学習目標	歯科保健指導の一環として食生活の改善が必要とされる対象者に対し栄養学の知識をもとにカウンセリングを行い対象者又は家族が問題点を理解し改善することができるよう、個人の食生活の把握・分析・的確な指導目標を立ててサポートすることができる。又自らの食生活の改善点も理解し、正しい食生活をおくることができる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および小テスト、学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70~79点,「可」:60~69点,「不可」:59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2「栄養と代謝」(医歯薬出版) 適時資料配布
留意事項	

授業計画：講義

回	内 容
1	Ⅲ編 栄養の基礎 1章 栄養の基礎知識 ①食生活と栄養 ②栄養素の消化・吸収
2	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 糖質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収
3	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 タンパク質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収 ④タンパク質過剰と不足
4	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 脂質 ①種類 ②栄養的意味 ③消化吸収
5	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 ビタミン ①種類 ②栄養的意味 ③ビタミンの過剰と不足
6	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 無機質 ①種類 ②栄養的意味 ③無機質の過剰と不足
7	Ⅲ編 栄養の基礎 3章 水・食物繊維 ①種類 ②栄養的意味 ③必要量と給源

回	内 容	
8	Ⅲ編 栄養の基礎	2章 食事摂取基準 ①エネルギー必要量 ②基礎代謝 ③ 日本人の食事摂取基準
9	Ⅳ編 食生活と食品	1章 食生活と健康 ①国民の健康と栄養の現状 ②望ましい食生活 国民健康・栄養調査、健康日本 21
10	Ⅳ編 食生活と食品	1章 食生活と健康 ②望ましい食生活 。食事バランスガイド
11	Ⅳ編 食生活と食品	1章 食生活と健康 ②望ましい食生活 特別用途食品制度、食事環境、食事計画
12	Ⅳ編 食生活と食品	1章 食生活と健康 ③ライフステージ別の栄養と調理 1、成長期における栄養と調理の特性
13	Ⅳ編 食生活と食品	1章 食生活と健康 ③ライフステージ別の栄養と調理 2、成人期における栄養と調理の特性 3、高齢期における栄養と調理の特性
14	Ⅳ編 食生活と食品	2章 食べ物と健康 ①食品の成分と分類 ②食べ物の物性
15	まとめ	栄養学を学び自身の食生活を考察する

17. 歯科診療補助論 I

1 単位 (必修)

第 2 学年 15 時間

担 当 教 員 名	飯田 彰
授 業 科 目 概 要	<p>歯科診療では種々の病原微生物に感染する可能性があり、歯科医療従事者は、日常臨床における院内感染防止対策に注意をはらわねばならない。そこで、微生物の特徴、感染症についての知識をもち、滅菌・消毒の重要性を理解して院内感染防止法の実際を習得させる。</p> <p>有病高齢者、障害者の治療に対し万が一の事態に対する知識と技術を学ぶ。</p>
目 的	<p>感染予防のための滅菌・消毒の重要性を理解し、臨床の場で実践できる。</p> <p>医療人として必要な救急蘇生法の知識を身につけ、歯科診療内外問わず起こりうる万が一の事態に適切に対応できる</p>
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> * 微生物の種類・構造、細菌の発育条件を説明できる。 * 滅菌・消毒の定義、体系を説明できる。 * リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念を説明できる。 * 歯科医療における感染防止の重要性を説明できる。 * 診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での感染予防の対応ができる。 * 物理的消毒法の作用機序と効果・特徴・注意事項を説明できる。 * 煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、簡易乾熱滅菌、EOG 滅菌、超音波消毒、紫外線消毒ができる。 * アルコール高圧滅菌、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌の理論を説明できる。 * フェノール係数・消毒薬の効果影響因子を説明できる。 * 薬品濃度の意味を説明できる。 * 消毒薬の作用機序と効果・特徴・使用方法、注意事項を説明できる。 * 逆性石鹼液、クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム、イルガサン DP300 の薬液を調整することができる。 * 器材別滅菌・消毒を実際に行うことができる。 * 感染症患者の器具・材料の取り扱いができる。 * 医療廃棄物・バイオハザードマークについて説明できる。 * 主な感染症(B 型肝炎・C 型肝炎、AIDS、梅毒等)の滅菌・消毒ができる。 * 手指消毒を的確に行える。 <p>有病高齢者、障害者、あるいは健常者であっても様々なショック症状が発生する場合がある。それぞれに対して迅速な対応が出来るように学びモニターの使用法など学習する。</p> <p>全身的偶発症の原因と種類及びその対処法がわかる。</p>
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・講義への取組み、学習態度、出席状況などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90 点以上, 「優」:80 点以上, 「良」:70~79 点, 「可」:60~69 点, 「不可」:59 点以下
教 材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第 2 版 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔」 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 (医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 第 2 版 (医歯薬出版)</p> <p>プリント、適宜資料配布救急蘇生法実習モデル。</p>
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1・2	<p>感染防止</p> <p>微生物の種類 滅菌・消毒の定義、体系</p> <p>歯科医療における感染症の概念</p> <p>リスクアセスメント、ユニバーサルプレコーション・スタンダードプレコーションの概念</p> <p>歯科医療における感染防止対策</p> <p>医療従事者としての対応、診療室、診療機器の感染防護、在宅訪問歯科診療での対応</p>
3・4	<p>滅菌・消毒法</p> <p>分類</p> <p>煮沸消毒、高圧蒸気滅菌、アルコール高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、EOG 滅菌</p> <p>超音波消毒、紫外線消毒、火炎滅菌、低温プラズマ滅菌他</p>
5・6	<p>薬液消毒法①</p> <p>消毒薬の作用機序・条件・使用上の注意事項</p> <p>フェノール係数・消毒液の効果影響因子・薬品濃度</p> <p>消毒用エタノール、イソプロパノール、クレゾール石鹼液他</p>
7・8	<p>薬液消毒法②</p> <p>逆性石鹼液、ヨードチンキ、ポピオンヨード</p> <p>クロルヘキシジン、グルタラル、次亜塩素酸ナトリウム他、</p> <p>器材別滅菌・消毒法</p>
9・10	<p>医療廃棄物の取り扱い</p> <p>医療廃棄物の種類、バイオハザードマーク</p> <p>感染症の知識</p> <p>B型肝炎・C型肝炎・AIDSの知識と滅菌法</p> <p>感染症患者の対応</p> <p>感染症患者治療時の準備・片付けの実際</p> <p>まとめ</p>
11・12	<p>全身的偶発症の原因と種類</p> <p>バイタルサインとモニタリング</p>
13・14	<p>救急蘇生法（一次救命処置）</p>
15・特1	<p>偶発症への対応、酸素吸入、救急薬品、血管確保</p> <p>緊急事態発生時の連絡方法、感染対策、特殊な事故（溺水、感電）、止血法</p>
特2・特3	<p>実習（一次救命処置）</p> <p>まとめ</p>

18. 介護技術

1単位(必修)

第2学年 15時間

担当教員名	加藤 ミサ子
授業科目概要	患者および障害者、要介護者の身体介護ができ、記録を残せる。 障害者歯科治療、歯科口腔介護、歯科訪問治療、訪問歯科衛生指導、居宅療養管理指導を行うにあたり必要となる身体介護技術、業務記録作成法、カンファレンス法を習得させる。
目的	身体介護を行うにあたり、障害者、要介護者の特性を理解し、介護がより人間的な行為であることを認識させ、実習で実践できるようにする。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは、介護(実習)の心構えを説明できる。 2. 共感的理解と基本的態度の形成ができる。 3. 寝具の整え方、ベッドメイキングの方法がわかる。 4. 寝床上での体位・姿勢交換、褥瘡への対応、シーツ交換の方法がわかる。 5. 高齢者、障害者と栄養・食生活のあり方を説明できる。 6. 在宅看護の基礎知識を説明できる。 7. 加齢と食事、嚥下困難な人の食事介助ができる。 8. 薬の種類と投薬方法を患者に説明できる。 9. 入浴介助、衣服の着脱、寝巻きの交換ができる。 10. 身体の清潔(全身清拭、部分浴)、整容動作の介助ができる。 11. 家具・車椅子等への移乗の介助、車椅子での移乗の介助ができる。 12. 排泄のケア、失禁への対応ができる。 13. 肢体不自由者の歩行の介護、視覚障害者の歩行等の介助法を知る。 14. 訪問介護計画(ケア計画)がたてられる。 15. 情報収集とニーズの発見ができる。 16. 業務における訪問介護計画のたて方を説明できる。 17. 援助内容の見直しができる。 18. 介護事例検討ができる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満した者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・講義への取組み、学習態度、出席状況などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上、「優」:80点以上、「良」:70～79点、「可」:60～69点、「不可」:59点以下
教材	適宜プリントを配布
留意事項	

授業計画：内容

回	内 容
1、2	介護基礎学 総論 介護とは何か QOL, ADLとは ADL障害の介護基礎学 廃用症候群の3つのとらえ方 高齢者のADL
3	ADLと座位の医学、生理学 脱水の医学 加齢と食事、嚥下困難な人の食事介助 総論 介護と歯科口腔介護
4、5	歯科口腔介護に必要な基礎知識 老化 高齢有病者の歯科的特徴と問題点 摂食・嚥下障害
6	痴呆性老人の介護基礎学：1 痴呆性老人とは 痴呆性老人の原因、症状
7、8	痴呆性老人の介護基礎学：2 痴呆性老人のケア 在宅、施設におけるケア
9	基本介護技術 食事介助、家具・車椅子等への移乗の介助、車椅子での移乗の介護、排泄のケア、失禁への対応 肢体不自由者の歩行の介護、視覚障害者の歩行等の介護
10、11	基本介護技術 入浴介助、衣服の着脱、寝巻きの交換
12	基本介護技術 身体の清潔（全身清拭、部分浴）整容動作の介助 寝具の整え方、ベッドメイキングの方法
13、14	訪問介護計画（ケア計画）の方法 訪問介護（ケア計画）、情報収集とニーズの発見、業務における訪問介護計画の方法、援助内容の見直し
15	まとめ

19. 歯科診療補助実習(実務教員による講義・実習)

6単位(必修)

第2学年 2単位 (60時間)

担当教員名	窪田 康花 菅原 和美
授業科目概要	さまざまなライフステージ・症例に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を学ぶ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用方を習得する ・ 保存治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する ・ 補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を習得する ・ 口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する ・ エックス線写真撮影時の補助のために必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概形印象の採得ができる ・ 隔壁法に用いる器具の操作ができる ・ コンポジットレジン修復の手順を説明できる ・ 歯面処理材料の準備ができる ・ コンポジット修復の器具や材料の準備ができる ・ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる ・ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる ・ エックス線写真撮影について説明できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験 ・ 実技試験 ・ 授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・ 「秀」:90点以上, 「優」:80点以上, 「良」:70~79点, 「可」:60~69点, 「不可」:59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論 第2版」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科材料」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科器械」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「口腔外科学・歯科麻酔」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科放射線学」(医歯薬出版)</p> <p>適時資料配布</p>
留意事項	

授業計画：第2学年

回	内 容
1～3	印象材練和(ファントム)
4～6	印象材練和(ファントム)
7～9	印象材練和(相互実習)
10～12	印象材練和(相互実習)
13～15	印象材練和(相互実習)
16～18	印象材練和(連合印象)
19～21	印象材練和(連合印象)
22～24	歯科保存修復法の診療補助実習
25～27	歯科保存修復法の診療補助実習
28～30	歯科保存修復法の診療補助実習
31～33	補綴歯科の診療補助実習
34～36	補綴歯科の診療補助実習
37～39	口腔外科診療補助実習
40～42	口腔外科診療補助実習
43～45	歯周外科治療法の診療補助実習
46～48	歯周外科治療法の診療補助実習
49～51	エックス線写真撮影の補助
52～54	エックス線写真撮影の補助
55～57	エックス線写真撮影の補助・実習
58～60	まとめ

20. 臨地実習・臨床実習(実務教員による実習)

20単位(必修)

9単位

第2学年 405時間

担当教員名	窪田 康花 蛭名 訓子 菅原 和美 岸川 留利花
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術(歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護)を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ・患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ・受付対応事務ができる。 ・歯科予防処置ができる。 ・年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ・予診における歯科診療補助ができる。 ・歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯科補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ・口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ・矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・X線撮影の歯科診療補助ができる。 ・高齢者とコミュニケーションをとることができる。 ・幼稚園児の発達段階がわかり、成長に合わせたコミュニケーションをとることができる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 ・総合的に評価を行う ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>これまでに使用したすべての教科書、プリント</p>
留意事項	<p>実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。</p> <p>注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。</p>

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 臨床実習：1
2	歯科診療所 臨床実習：2
3	歯科診療所 臨床実習：3
4	歯科診療所 臨床実習：4
5	歯科診療所 臨床実習：5
6	歯科診療所 臨床実習：6
7	歯科診療所 臨床実習：7
8	歯科診療所 臨床実習：8
9	歯科診療所 臨床実習：9
10	歯科診療所 臨床実習：10
11	歯科診療所 臨床実習：11
12	歯科診療所 臨床実習：12
13	幼稚園 臨地実習：1
14	介護施設 臨地実習：2
15	病院歯科 臨床実習：13
16	小児歯科 臨床実習：14
17	矯正歯科 臨床実習：15

21. 歯科接遇作法

1単位（選択必修）

第2学年 15時間

担当教員名	田中 みどり
授業科目概要	<p>礼儀を押さえる事が、いかに重要か理解を深め、自己トレーニング法を導入し授業後も自分磨きができるよう個人指導強化の授業。</p> <p>好印象を与える要素を理解し、実践で表現できるように指導。</p> <p>「ケアコミュニケーション」のスキルアップをはかる。</p>
目的	<p>接遇 イコール ケアである事を理解し、患者様に対してだけでなく人とのコミュニケーションを大切にできる学生を育成する。</p> <p>社会人としての心得を押さえ、自信をもって社会に羽ばたける学生を育てる。</p>
学習目標	接遇を頭の理解にとどまらず、具体的に表現するテクニックを体得する
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70～79点,「可」:60～69点,「不可」:59点以下
教材	特になし（プリント配布）
留意事項	必ず実技を伴うこと。

回	内 容
1、2	医療従事者としての接遇とは 第一印象の重要性（セルフチェック） 患者様への好感度の高い接し方
3	立ち居振る舞い 声の演出（呼吸法・発声法・他）
4、5	言葉遣い 敬語・表現法 心に響く話し方
6	来客対応 患者様優先の心づかい 誘導・戸の開閉・物授受・名刺取扱・上座・お茶コーヒーの出し方 他
7、8	電話対応 電話のコミュニケーション 実践
9	クレーム対応
10、11	ケアコミュニケーション 1
12	ケアコミュニケーション 2
13、14	授業総括 演習 ロールプレー
15	まとめ

2.2. 医療保険事務(実務教員による講義)

1 単位 (選択必修)

第2学年 15時間

担当教員名	菅原 和美
授業科目概要	基本的な診療におけるカルテの内容を理解し、臨床の場でスムーズに対応できる知識と技術を習得する。
目的	日常の歯科診療で一般的に使用されている保険請求略語・基本的なカルテの内容を理解し、診療の流れと関連させることができる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保険請求略語について理解する ・医療保険制度の概要について理解する ・保険請求事務の概要について理解する
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・授業への出席および学習態度などにより総合的に評価を行う ・「秀」:90点以上,「優」:80点以上,「良」:70~79点,「可」:60~69点,「不可」:59点以下
教材	資料配布
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	カルテの基礎知識
2	カルテ 基本診療料
3	カルテ 画像診断
4	カルテ CR①
5	カルテ CR②
6	カルテ In①
7	カルテ In②
8	カルテ 麻酔抜髄
9	カルテ 感染根管処置・根管治療
10	カルテ 根管充填
11	カルテ 支台築造・Cr
12	カルテ 有床義歯
13	カルテ 歯周治療①
14	カルテ 歯周治療②
15	まとめ

シラバス

令和2年度 夜間部3年

学校法人 札幌青葉学園

 北海道歯科衛生士専門学校

目次

	科目名称	ページ
	歯科衛生士学校教育課程	P2
	授業実施計画表	P3
1	衛生行政・社会福祉	P4
2	衛生学・公衆衛生学	P6
3	小児歯科学	P8
4	障害者歯科・高齢者歯科－障害者歯科	P10
5	障害者歯科・高齢者歯科－高齢者歯科	P11
6	歯科予防処置実習	P12
7	歯科保健指導実習	P14
8	臨床検査法	P16
9	歯科診療補助実習	P18
10	臨地実習・臨床実習	P20
11	摂食機能訓練法	P22
12	多職種連携医療	P24
13	総合学習Ⅰ	P26
14	総合学習Ⅱ	P27
15	総合学習Ⅲ	P28

歯科衛生士学校教育課程 夜間部

分野	教育内容	基準 単位数		科目名称	単位数	学年別授業時間数			単位授業数 時間数
						1	2	3	
基礎分野	科学的思考の基礎	10	1	生物学	2	30			30
			2	生化学	2	30			30
	3		基礎数学	1	20			20	
	4		国語	2	30			30	
	5		心理学	1		15		15	
	6		歯科英語	1		15		15	
	7		歯科情報処理	1		15		15	
	小計		10			10	110	45	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	8	解剖学・組織発生学・生理学	3	45			45
	歯・口腔の構造と機能		9	口腔解剖学	2	30			30
			10	歯牙解剖学	2	30			30
			11	口腔生理学	2	30			30
	疾病の成り立ちと回復の促進	12	病理学・口腔病理学	2		30		30	
		13	薬理学・口腔薬理学	2	30			30	
		14	微生物学・口腔微生物学	2	30			30	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7	15	衛生行政・社会福祉	2			30	30
		16	衛生学・公衆衛生学	2		15	15	30	
		17	口腔衛生学・歯科衛生統計	3	30	15		45	
小計	22			22	225	60	45	330	
専門分野	歯科衛生士概論	2	18	歯科衛生士概論	1	15			15
			19	歯科臨床概論	1	15			15
	臨床歯科医学	8	20	歯科保存学	2	15	15		30
			21	歯周治療学	1		20		20
			22	歯科補綴学	2	15	15		30
			23	口腔外科学	1		20		20
			24	小児歯科学	1			20	20
			25	矯正歯科学	1		20		20
			26	障害者歯科・高齢者歯科	1			20	20
	歯科予防処置論	8	27	歯科予防処置論Ⅰ	1	15			15
			28	歯科予防処置論Ⅱ	1		15		15
			29	歯科予防処置実習	6	30	90	60	180
	歯科保健指導論	7	30	歯科保健指導論Ⅰ	1	15			15
			31	歯科保健指導論Ⅱ	1		15		15
			32	歯科保健指導実習	4	30	30	60	120
			33	栄養学・栄養指導	1		15		15
	歯科診療補助論	9	34	歯科診療補助論Ⅰ	1		15		15
35			介護技術	1		15		15	
36			臨床検査法	1			15	15	
37			歯科診療補助実習	6	60	60	60	180	
臨地実習・臨床実習	20	38	臨地実習・臨床実習	20	180	405	315	900	
小計	54			55	390	750	550	1690	
選択必修分野	7単位を選択	7	39	歯科接遇作法	1		15		15
			40	摂食機能訓練法	1			15	15
			41	医療保険事務	1		15		15
			42	多職種連携医療	1			15	15
			43	総合学習Ⅰ	1			15	15
			44	総合学習Ⅱ	1			15	15
			45	総合学習Ⅲ	1			15	15
小計	7			7	0	30	75	105	
合計	93			94	725	885	670	2280	
必修科目単位数(時間数)					87	725	855	595	2175
選択科目単位数(時間数)					7	0	30	75	105

単位について

ア.講義は基礎分野・専門分野については1単位 15H

イ.基礎実習については1単位 30H

ウ.臨床実習・隣地実習については1単位 45H

1. 衛生行政・社会福祉

2単位（必修）

第3学年 30時間

担当教員名	小畑 真
授業科目概要	健康で文化的な生活を営むための社会支援、保険・医療・福祉の動向や社会保障制度、高齢化社会における福祉について概説する。
目的	歯科衛生行政や社会保障の諸制度を学ぶ際にそれらの基礎となる行政の仕組みや取り組みを理解し、保健、医療、福祉での役割を学ぶ。
学習目標	少子高齢化社会を迎え、医療需要が増大し多様化してきている。そこで衛生行政の仕組みや保健医療、さらに福祉関係の法規について精通し、社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸政策について理解を深めることを目標とする。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・「秀」：90点以上，「優」：80～89点，「良」：70～79点，「可」：60～69点，「不可」：59点以下
教材	「歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険」（医歯薬出版） 配布プリント
留意事項	

授業計画：講義

回	内容
1～3	衛生行政・衛生関係法 衛生行政の目的，衛生行政の沿革 衛生関係法 1 法制概論，医師法，歯科医師法，その他の医療関係者に関する法律
4～6	衛生関係法 2 医療法，薬事関係法，母子保健法，地域保健関係法 衛生関係法 3 歯科衛生士法 1) 歯科衛生士法の目的 2) 歯科衛生士の定義 3) 歯科衛生士法の資格の定義
7～9	衛生関係法 4 歯科衛生士法 4) 歯科衛生士免許，歯科衛生士名簿 5) 歯科衛生士免許の申請，書換え 6) 歯科衛生士の資格の喪失 7) 歯科衛生士の業務 保健医療の動向 1 厚生関係統計調査 国民の健康と傷病

回	内 容
10～12	保健医療の動向 2 医療関係者 医療施設 社会保険制度 1 社会保険制度の成り立ち， 社会保障の目的と機能
13～15	社会保険制度 2 ライフサイクルにおける社会保障， 世界の社会保障制度 社会福祉 1 社会福祉の沿革， 社会福祉行政の組織， 生活保護制度
16～18	社会福祉 2 児童と家族の福祉 社会福祉 3 障害者の福祉
19～21	社会保障 1 社会保険の沿革， 社会保険行政の組織 医療保険 社会保険 2 介護保険
22～24	社会保険 3 年金保険 社会保険 4 後期高齢者医療制度
25～27	社会保険 5 労働保険 歯科衛生士の業務の実際①
28～30	歯科衛生士の業務の実際② まとめ

2. 衛生学・公衆衛生学

2 単位 (必修)

第3学年 1 単位 15 時間

担当教員名	兼平 孝
授業科目概要	<p>人の健康と疾病予防の概念について学ぶ</p> <p>人の健康問題とそれに関わる環境について学ぶ</p> <p>疫学的手法を学び、疾病・異常の予防対策について学ぶ</p> <p>地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや方法について学ぶ</p>
目的	衛生学・公衆衛生的な考え方や知識を活用し、集団あるいは地域社会の健康レベルを増進することを目的とする。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と家族の健康を守る能力の向上をはかるとともに、医療人として、地域の人々の健康を守る人(職種)であるという意識の向上をはかる ・日常生活や予防の視点から、健康増進や、疾病の原因と予防について理解し、健康問題とそれに関わる要因についての理解を深めて問題解決に必要な判断力と行動力を養う ・地域住民の健康づくりを支援する社会の仕組みや組織、その方法を習得する <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い視野を持って、健康にかかわる社会の出来事(ニュース)に関心を持つ ・健康や病気には多くの要因が関わることを知り、その知識と理解を深める ・日常生活習慣や予防の視点から、自分の健康に留意し、生活し、自己の健康を管理することができる ・地域保健活動に参加していく上で必要な基礎知識を習得する
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・2年次1単位、3年次1単位の割合で最終評価とする ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 「保健生態学」第2版</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 「保健情報統計学」</p> <p>【参考図書】</p> <p>シンプル衛生公衆衛生学(南江堂)</p> <p>スタンダード衛生公衆衛生学(学建書院)</p>
留意事項	

授業計画：第3学年

回	内 容	
1、2	食品と健康・1	国民栄養の現状と問題点、健康づくりのための各種指針
3	食品と健康・2	機能的食品、食中毒、食品添加物
4、5	地域保健	地域保健とは、地域保健の組織、地域の保健計画、住民の生活、地域特性、地域保健活動の進め方、健康日本21
6	母子保健	母子保健の意義、母子保健の現状、母性保健管理、小児保健管理、母子保健対策、母子歯科保健との関連
7、8	学校保健	学校保健の意義および概要、学校保健の活動とその組織
9	成人・老人保健・1	成人・老人保健の現状と課題、8020運動との関連
10、11	成人・老人保健・2	成人保健と老人福祉対策
12	産業保健	産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健活動
13、14	精神保健	心の健康と障害、ライフサイクルからみた精神保健
15	講義の補追	

3. 小児歯科学

1 単位（必修）

第 3 学年 20 時間

担当教員名	高崎 千尋
授業科目概要	小児の成長発育および精神発達、小児の歯、歯列、咬合の発育、小児のう蝕の特徴と治療法、歯科の問題点、患児の対応法、正常な永久歯列を導くための装置、管理法を理解する。
目的	小児の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 小児の成長発育を説明できる ② 歯の萌出と交換、歯列咬合の変化を説明できる ③ 小児の精神発達を理解し、年齢にあった対応ができる ④ 乳歯および永久歯のう蝕予防のための保健指導、処置ができる ⑤ 乳歯う蝕の特徴と乳歯の歯冠修復、歯内療法を説明できる ⑥ 小児の外科的処置および薬物療法を説明できる ⑦ 咬合誘導装置、口腔習癖除去装置の種類と意義を説明できる ⑧ 小児歯科の診療補助の前準備、術式、使用器材、処置後メンテナンスが説明できる ⑨
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 分の 2 以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績，出席状況，受講態度等を総合的に評価する。 ・ 「秀」：90 点以上，「優」：80～89 点，「良」：70～79 点，「可」：60～69 点，「不可」：59 点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「小児歯科学」(医歯薬出版)</p>
留意事項	

授業計画：講義

回	内容
1・2	小児歯科学概論 心身の発育
3・4	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常
5・6	歯列・咬合の発育と異常 乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕
7・8	小児にみられる歯周疾患 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 小児歯科診療とその特徴 診察・検査・診断

回	内 容
9・10	母親教室 小児歯科における麻酔法 小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 保存修復） ラバーダム防湿・コンポジットレジン充填 メタルインレー修復・乳歯冠 コンポジットレジン冠
11・12	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 歯内療法） 歯髄鎮静法・歯髄切断法・抜髄法・感染根管治療 幼若永久歯の歯内療法
13・14	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診療補助 外科的処置、咬合誘導） 抜歯・外傷歯の処置 咬合誘導（各種誘導装置） フッ化ジアンミン銀
15・16	小児歯科診療における歯科衛生士の役割（診察検査時の業務、う蝕予防） プラークコントロール・フッ化物応用・シーラント 小児歯科における患者との対応法 障害児の歯科治療
17・18	小児の口腔保健管理 歯科診療室の管理・器材の管理 乳歯冠の取り扱い
19・20	まとめ

4. 障害者歯科・高齢者歯科 —障害者歯科—

1 単位 (必修)

第 3 学年 20 時間

担当教員名	木村 幸文
授業科目概要	障害者の現状を把握し、障害の種類と歯科的特徴を理解する。障害者、高齢者と有病者の総合的な歯科医療における歯科衛生士の役割とその実際面について学習をする。
目的	障害者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	様々な障害の種類と成り立ちを学び、障害者の特徴を理解する。 歯科治療時における注意点を学び歯科衛生士としての役割を学ぶ。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・障害者歯科5割、高齢者歯科5割で最終評価とする ・「秀」: 90点以上, 「優」: 80点以上, 「良」: 70~79点, 「可」: 60~69点, 「不可」: 59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 (医歯薬出版)
留意事項	

授業計画：講義

回	内容
1、2	障害者の現況 障害とは 障害者の歯科診療 行動調整、障害者歯科の特殊性
3、4	障害の種類と歯科的特徴
5、6	障害者歯科における歯科衛生士の役割 摂食・嚥下障害の対応
7、8	行動調整における歯科診療補助の実際 障害別の対応
9、10	障害者の口腔保健管理

5. 障害者歯科・高齢者歯科 —高齢者歯科—

担当教員名	松下 貴恵
授業科目概要	高齢者の身体的、精神的特性、さらに口腔の特性を把握、理解する。 高齢者の歯科診療および口腔保健管理における歯科衛生士の役割とその実際について学習する。
目的	高齢者の特徴と治療法を理解し、臨床に役立てる。
学習目標	高齢者の歯科診療の歯科診療補助時の実際、留意点、および口腔保健管理における実際、留意点について学習し理解する。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満した者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・障害者歯科5割、高齢者歯科5割で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 「高齢者歯科 第2版」 (医歯薬出版)
留意事項	

授業計画：講義

回	内容	
1、2	高齢者歯科の現状 高齢者の健康と疾病 高齢者と薬剤	高齢者の特性 高齢者を支える保健、医療、福祉の基盤 薬剤の情報とその重要性
3、4	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割 高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割	診療時の問題と留意点 診療内容に応じた補助対応 高齢者との接し方 歯科診療室での介助
5、6	高齢者の歯科診療の実際と歯科診療補助 高齢者の口腔保健管理 高齢者の歯科保健指導の実際と留意点	バイタルサインとモニタリング 疾病状態を考慮した歯科診療補助時の留意点 感染予防 摂食機能療法 歯科衛生士による口腔保健管理 日常的な口腔の器質的、機能的ケアと義歯 歯科保健指導の実際 摂食・嚥下状態と食物物性の関連
7、8	要介護高齢者と歯科衛生士 訪問歯科保健指導の実際	口腔ケアの必要性と効果 歯科衛生士と訪問活動 介護保険制度と歯科保健医療とのかかわり 介護保険制度の仕組み 訪問歯科保健指導の基本的知識 在宅での訪問歯科保健指導の流れ
9、10	まとめ	

6. 歯科予防処置実習（実務教員による講義・実習）

6単位（必修）

第3学年 2単位 60時間

担当教員名	窪田 康花 蛭名 訓子
授業科目概要	歯科衛生士が臨床の場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を習熟するため、歯科予防処置、歯科保健指導の内容をさらに拡充させていく。
目的	主要3科目である歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を総合的に捉え、歯科衛生士として臨床において行う業務に役立てる。 歯石除去技術の向上を図り、患者の反応を見ながら施術する習慣を身につけさせる。 う蝕予防の基礎知識を学び、う蝕活動試験法の技術を習熟する。
学習目標	<p>【一般目標】</p> <p>対象者別に口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 口腔保健の意義を説明できる。</p> <p>② 対象を把握し予防管理法を説明できる。</p> <p>③ 病勢阻止のための継続管理の計画がたてられる。</p> <p>④ 生涯を通じた口腔保健管理の目的が言える。</p> <p>⑤ ライフステージごとの口腔保健管理計画がたてられる。</p> <p>⑥ 口腔保健管理の場を説明できる。</p> <p>⑦ ホームケアとプロフェッショナルケアの説明ができる。</p> <p>⑧ 口腔保健管理演習のポイントを説明できる。</p> <p>⑨ 学童期の指導計画がたてられる。</p> <p>⑩ 歯周疾患患者の継続管理指導計画がたてられる。</p> <p>⑪ 要介護高齢者の口腔管理法を説明できる。</p> <p>① 症例検討の目的、進め方を説明でき、自ら症例検討ができる。</p> <p>② 各種活動性試験ができる</p> <p>③ う蝕活動性試験の結果を有効に活用できる</p> <p>④ 個人・集団のう蝕予防法を説明できる</p> <p>⑤ 症例検討ができる</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・1年次1単位、2年次3単位、3年次2単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）、プリント</p>
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1	口腔保健の意義 日常生活と口腔保健、食生活と口腔保健、歯科保健行動、歯科健康教育
2	対象把握と予防管理法 疾病発生の予防、う蝕予防の臨床、歯周疾患予防の臨床
3	病勢阻止のための継続管理：第2次予防 歯周疾患の継続管理、補綴物装着後の継続管理、その他の歯科治療終了後の継続管理、矯正歯科治療継続中の管理
4	口腔保健管理の実際 目的、ライフステージごとの口腔保健管理計画、特別な配慮が必要な人の口腔内の状況と口腔保健管理
5	口腔保健管理の場の理解：施設、居宅訪問指導 老人保健法としての口腔保健管理、介護保険と口腔保健管理
6	口腔観察と口腔清掃 口腔観察と記録 ホームケア、プロフェッショナルケア、口腔清掃
7	口腔保健管理の演習 演習でのポイント（情報の収集、問題の抽出、指導：ケア計画、実施・経過記録、評価）
8	口腔保健管理の演習 幼児・学童期の指導
9	口腔保健管理の演習 歯周疾患患者の継続管理指導
10	口腔保健管理の演習 要介護高齢者の指導
11	総合演習 モデル患者実習
12	総合演習 モデル患者実習

7. 歯科保健指導実習（実務教員による講義・実習）

2単位（必修）

第3学年 2単位 60時間

担当教員名	窪田 康花
授業科目概要	訪問診療を必要とする人の様々な実態を理解し、それぞれに対応した保健指導のあり方を学ぶ。 保育所、幼稚園を対象として健康教育を実践する。
目的	訪問診療の現場においてかかわる他職種との連携について学び、訪問歯科保健指導の実際について理解する。 健康教育の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。
学習目標	① 訪問歯科保健指導の内容が説明できる。 ② 在宅の限られた条件の下で歯科保健指導ができる。 ③ 口腔清掃の自立度に応じた指導ができる。 ④ 訪問歯科保健指導の業務記録ができる。 ⑤ 訪問歯科保健指導に必要なアセスメントをとることができる。 ⑥ アセスメント結果に応じた保健指導計画がたてられる。 ⑦ 在宅療養者にかかわる職種との連携方法を説明できる。 ⑧ 歯科訪問診療に必要な器具、材料を用意できる。 ⑨ 歯科訪問診療時の診療補助の内容について説明できる。 ⑩ 歯科診療時の口腔保健指導に必要な留意点が列挙できる。 ⑪ 訪問の場の違いに応じた保健指導、保健教育ができる。 ⑫ 保育所、幼稚園の口腔保健の実態が把握できる。 ⑬ 保育所、幼稚園を対象とした健康教育ができる。
成績評価方法	・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・1年次1単位、2年次1単位、3年次2単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」（医歯薬出版） はじめて学ぶ歯科衛生士のための歯科介護 第3版（医歯薬出版）
留意事項	注）授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内容
1	歯科口腔介護の内容と方法・1 歯科口腔介護の内容 歯科口腔介護で行うリハビリテーション
2	歯科口腔介護の内容と方法・2 歯科口腔介護の手順と方法 各制度下での歯科口腔介護
3	歯科口腔介護の関連知識・1 介護の基本と実際 歯科口腔介護の実践
4	歯科口腔介護の関連知識・2 介護・歯科口腔介護のための器材 介護・歯科口腔介護に役立つ薬剤

回	内 容
5	訪問歯科保健指導の必要性とその効果 要介護高齢者への接し方 介護技術
6	訪問歯科保健指導の基本手技・1 口腔清掃法、口腔清掃時の体位、器具の工夫、義歯に関するケア
7	訪問歯科保健指導の業務記録
8	歯科衛生士が行う在宅訪問歯科保健指導 訪問歯科保健指導の必要性とその効果
9	保育所、幼稚園を対象とした健康教育のための媒体作成
10	まとめ

8. 臨床検査法

1 単位 (必修)

第 3 学年 15 時間

担 当 教 員 名	木村 幸文
授 業 科 目 概 要	歯科衛生士に最小限必要な臨床検査の方式を習得する。
目 的	臨床検査の方法を学び、その正常値を学習し、臨床に役立てる。
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ①検査と歯科衛生士の役割を理解する。 ②検査の種類を学ぶ。 ③生体検査 (体温・脈拍・血圧・経皮的動脈血酸素飽和度) の方法を理解する。 ④尿の一般知識と尿検査の意味を理解する。 ⑤採血法と血液検査の知識を得る。 ⑥血液型検査の方法を理解する。 ⑦貧血検査・出血性素因検査・感染症検査について理解する。 ⑧肝機能検査の最低限の知識を修得する。 ⑨糖尿病検査の知識を得る。 ⑩病理検査について理解する。 ⑪口腔領域における各種臨床検査の方法を理解する。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・「秀」: 90 点以上, 「優」: 80 点以上, 「良」: 70~79 点, 「可」: 60~69 点, 「不可」: 59 点以下
教 材	最新歯科衛生士教本 「臨床検査」 (医歯薬出版)
留 意 事 項	

授業計画：講義

回	内 容
1、2	1 章 臨床検査とは <ul style="list-style-type: none"> (1) 臨床検査の倫理と安全性 (2) 臨床検査はなぜ必要か (3) どんな検査があるのか (4) 検査成績の読み方
3	2 章 生体検査 (生理機能検査) <ul style="list-style-type: none"> (1) 体温検査 (2) 脈拍検査

回	内 容
4、5	(3) 血圧検査 (4) 心機能検査 (5) 肺機能検査 (6) 筋電図検査
6	(7) 脳波検査 (8) 血中酸素濃度検査 3章 検体検査 (1) 血液を用いる検査 1.血液検査
7、8	2.血液凝固・線溶系検査 3.生化学検査
9	4.免疫・血清検査 5.血液型検査 6.そのほかの検査
10、11	(2) 感染症検査 (3) 病理検査
12	4章 口腔領域の臨床検査 (1) 口臭検査 (2) 味覚検査 (3) 歯科金属アレルギーの検査
13、14	(4) 舌の検査 (5) 口腔粘膜の検査 エックス線写真検査 マイクロスコープによる検査
15	まとめ

9. 歯科診療補助実習（実務教員による講義・実習）

6単位（必修）

第3学年 2単位 60時間

担当教員名	窪田 康花
授業科目概要	これまでに学習した歯科診療補助技術の熟練度を確認し、重要項目について総合的に実習・講義を行う。
目的	卒業後、即戦力となって活躍できるための技能を身に付ける。
学習目標	<p>小児歯科</p> <ul style="list-style-type: none"> * 歯科診療補助を行う上で必要な器材の受け渡し法について身に付け、生活歯髄切断の術式、使用器材、診療補助の手順が説明できる。 <p>矯正歯科</p> <ul style="list-style-type: none"> * ブラケット装着の準備と接着材料の手順が説明できる。 * マルチブラケットの装置装着時のセッティングができる。 <p>診療補助総合実習</p> <ul style="list-style-type: none"> * 暫間被覆冠を作製できる。 * 就業にあたっての心構えをもてる。 * 脳貧血時等の対応ができる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験 ・実技試験 ・1年次2単位、2年次2単位、3年次2単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論 第2版」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科材料」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科器械」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「小児歯科学」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「矯正歯科学」(医歯薬出版)</p> <p>最新歯科衛生士教本 「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版)</p> <p>適時資料配布</p>
留意事項	注) 授業計画の回数欄は、内容別に分類した数字を示す。

授業計画：第3学年

回	内 容
1	矯正歯科診療補助実習
2	小児歯科診療補助実習
3	歯科診療補助総合実習 スタディモデル作製法
4	歯科診療補助総合実習 ホワイトニング法
5	歯科診療補助総合実習 歯肉圧排法
6	歯科診療補助総合実習 ラバーダム防湿
7	歯科診療補助総合実習 個人トレーの作成・義歯製作の流れ、義歯装着・修理
8	歯科診療補助総合実習 暫間被覆冠作製法
9	歯科診療補助総合実習

10. 臨地実習・臨床実習（実務教員による実習）

20単位（必修）

3学年 7単位 315時間

担当教員名	窪田 康花 蛭名 訓子 菅原 和美 岸川 留利花
授業科目概要	歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護について臨地、臨床の場で実習する。
目的	医療従事者としての人格を養う。 これまでに習得した知識、技術（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科口腔介護）を、臨地・臨床の場において実践できる能力を養う。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者や歯科医師、スタッフから信頼され好感を持たれるよう、医療人として清潔感のある身だしなみを整えることができる。 ・患者や歯科医師、スタッフと良い人間関係をつくることができるよう、正しい日本語、正しい発音で挨拶や話しができる。また、相手の人格を尊重し、いたわりの気持ちを持った態度や行動がとれる。 ・受付対応事務ができる。 ・歯科予防処置ができる。 ・年代や状況等、個々に対応した保健指導ができる。 ・予診における歯科診療補助ができる。 ・歯科保存治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯周治療時の歯科診療補助ができる。 ・歯科補綴治療時の歯科診療補助ができる。 ・口腔外科治療時の歯科診療補助ができる。 ・矯正歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・小児歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・X線撮影の歯科診療補助ができる。 ・高齢者とコミュニケーションをとることができる。 ・幼稚園児の発達段階がわかり、成長に合わせたコミュニケーションをとることができる。 ・障害者・高齢者歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・訪問歯科治療時の歯科診療補助ができる。 ・訪問歯科衛生指導ができる。 ・介護老人施設入所者に対して歯科口腔介護ができる。 ・公衆衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる。 ・歯科技工所の役割、業務が理解できる。 ・全身疾患を有する方（生活習慣病を有する方や抗がん剤治療を受けている方等）への口腔ケア、歯科診療補助ができる。 ・多職種と関わることができる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・施設評価 ・臨地実習・臨床実習への取組みと実習態度 ・出席状況 ・提出物 ・1年次4単位、2年次9単位、3年次7単位の割合で最終評価とする ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	<p>【教科書】</p> <p>これまでに使用したすべての教科書、プリント</p>
留意事項	<p>実習に臨む心構えをきちんともたせ礼儀作法や身だしなみに注意させる。</p> <p>注) 授業計画の回数欄は、実習内容別に分類した数字を示す。</p>

授業計画

回	内 容
1	歯科診療所 臨床実習：1
2	歯科診療所 臨床実習：2
3	歯科診療所 臨床実習：3
4	歯科診療所 臨床実習：4
5	歯科診療所 臨床実習：5
6	歯科診療所 臨床実習：6
7	歯科診療所 臨床実習：7
8	歯科診療所 臨床実習：8
9	歯科診療所 臨床実習：9
10	歯科診療所 臨床実習：10
11	歯科診療所 臨床実習：11
12	歯科診療所 臨床実習：12
13	介護施設 臨地実習：1
14	介護施設 臨地実習：2
15	病院歯科 臨床実習：13
16	小児歯科 臨床実習：14
17	矯正歯科 臨床実習：15

1 1. 摂食機能訓練法

1 単位（選択必修）

第3学年 15時間

担当教員名	戸倉 聡
授業科目概要	超高齢社会の中においては脳梗塞などの後遺症のため摂食機能低下がある患者が非常に多い。それらの人は義歯を形態的に直し、摂食嚥下機能訓練をすることで誤嚥性肺炎を防ぐことが出来るということを理解させる。同様に障害者にも摂食機能訓練が必要な患者が多いことを理解させる。
目的	摂食機能療法を理解し、食事を与えるときに歯科医師の指示のもとで簡単な指導が出来るようにする。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食・嚥下障害者の評価方法が説明できる 2. 摂食・嚥下のメカニズムが説明できる 3. 摂食・嚥下の機能障害について説明できる 4. 摂食・嚥下障害の評価ができる 5. 要介護高齢者の摂食能力と摂食状況・機能障害状況について説明できる 6. 摂食・嚥下と温度並びに味覚情報について説明できる 7. 食物の物性は味わいにどう影響するのかが説明できる 8. 摂食・嚥下障害に対する栄養調理の対応について説明できる 9. 在宅における摂食・嚥下障害への対応について説明できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	摂食・嚥下障害ベストナッシング（学研）
留意事項	

授業計画

回	内容
1、2	摂食・嚥下機能の基礎知識（1） 摂食・嚥下障害とは 摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識
3	摂食・嚥下機能の基礎知識（2） 摂食・嚥下機能のメカニズム

回	内 容
4、5	摂食・嚥下機能の検査
6	摂食・嚥下機能の診断・評価
7、8	摂食・嚥下リハビリテーションの基礎知識
9	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（1） 摂食・嚥下訓練の基礎知識
10、11	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（2） 摂食・嚥下訓練の方法 間接訓練（基礎訓練）
12	摂食・嚥下リハビリテーションの実際（3） 摂食・嚥下訓練の方法 直接訓練（摂食訓練）
13、14	発達障害児における摂食・嚥下リハビリテーション
15	介護予防

12. 多職種連携医療（実務教員による講義）

1 単位（選択必修）

第3学年 15時間

担当教員名	北條 敬之 小山田 貴子 窪田 康花
授業科目概要	患者・利用者中心の支援活動をチームで行うために、臨床現場で実際に行われている具体的な事例を聞き、他職種の特徴や多様性について理解する。 多職種連携が必要とされている背景を知り、理解を深める。
目的	それぞれの職業における専門分野の特徴と多様性を理解する。 患者・利用者を中心とした多職種連携医療の意義と方法を理解する。 意欲・関心を高め、多職種との連携に役立てることができる。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士以外の医療系職種について理解できる ・ 主な全身疾患とその対応について説明できる ・ 多職種連携時の歯科衛生士としての役割を理解できる ・ 臨床現場で求められている歯科衛生士像を理解できる
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・ 3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・ 「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	適宜資料配布
留意事項	

授業計画

回	内 容
1	多職種連携医療とその背景（窪田）
2、3	医療系職種について①（窪田）
4	全身疾患を持っている患者の特性について①（北條）
5	全身疾患を持っている患者の特性について②（北條）
6	全身疾患を持っている患者の特性について③（北條）
7	全身疾患を持っている患者の特性について④（北條）
8	全身疾患を持っている患者の特性について⑤（北條）
9	多職種連携時に求められる歯科衛生士について①（小山田）
10	多職種連携時に求められる歯科衛生士について②（小山田）
11	多職種連携時に求められる歯科衛生士について③（小山田）
12	多職種連携時に求められる歯科衛生士について④（小山田）
13	多職種連携時に求められる歯科衛生士について⑤（小山田）
14	医療系職種について②（窪田）
15	医療系職種について③（窪田）
16	まとめ（窪田）

13. 総合学習 I (実務教員による講義)

1 単位 (選択必修)

第 3 学年 15 時間

担 当 教 員 名	吉田 重光 窪田 康花 蛭名 訓子 菅原 和美 岸川 留利花
授 業 科 目 概 要	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだことを総合的に学習する。科目ごとの知識を総合的に捉え、知識の統合を図る。
目 的	基礎分野、専門基礎分野、専門分野での知識をまとめ、総合的に捉えることで、科学的・論理的思考能力を育成する。
学 習 目 標	生命科学等の理解を深め、人体ならびに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防法と回復過程に関する知識をまとめ、観察力、判断力を培う。
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 分の 2 以上の出席を満了した者について筆記試験を実施する ・ 3 分の 2 以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・ 筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・ 「秀」: 90 点以上, 「優」: 80 点以上, 「良」: 70~79 点, 「可」: 60~69 点, 「不可」: 59 点以下
教 材	基礎分野、専門基礎分野で使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留 意 事 項	

授業計画

回	内 容
1~15	教員のもとで、各自がまとめを行う。

14. 総合学習Ⅱ（実務教員による講義）

1 単位（選択必修）

第3学年 15時間

担当教員名	吉田 重光 窪田 康花 蛭名 訓子 菅原 和美 岸川 留利花
授業科目概要	理論的思考力を養うため、これまでに学んだ中から学生が各自で研究テーマを考え、それについての理解を深める。
目的	知識をまとめる力を身につける。
学習目標	自分で研究テーマを挙げ、知識の整理、まとめを行い、歯科衛生士として将来必要となる科学的思考力を養う。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留意事項	

授業計画

回	内容
1～15	教員のもとで、各自がまとめを行う。

15. 総合学習Ⅲ（実務教員による講義）

1 単位（選択必修）

第3学年 15時間

担当教員名	吉田 重光 窪田 康花 蛭名 訓子 菅原 和美 岸川 留利花
授業科目概要	3年間で学んだことを集約する。多くの断片的歯科医学知識を立体的に組み立て、実際に臨床で有効に使えるようにする。
目的	知識と技術の統合を目的とする。
学習目標	歯科衛生士業務は殆どすべてが歯科医師の指示の基に行われることから、歯科衛生士教育では自分で判断する訓練がされていない。今後歯科衛生士に求められることは他の医科関係業種との連携であり、さらに介護の場面では全く異なった業種との連携が必要になってくる。その場面で歯科医師がいるとは限らず、歯科衛生士業務の範囲内では自分の判断、自分の考えが求められる。そのためにはみんなで議論をし自分の考えを述べる訓練をし、それが出来るようになることが目標となる。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席を満たした者について筆記試験を実施する ・3分の2以上の出席に達しない者は、本授業科目についての受験資格を失う ・筆記試験の成績、出席状況、受講態度等を総合的に評価する ・「秀」：90点以上、「優」：80点以上、「良」：70～79点、「可」：60～69点、「不可」：59点以下
教材	これまでに使用した教科書、プリント 適宜プリント配布
留意事項	

授業計画

回	内容
1～15	3年間で学んだ知識、技術の集大成のため、随時課題を出し、問題解決型の歯科衛生士を目指す。